

# 瀬戸内エリアの観光関連指標（未定稿）

1. 来訪意向度について
2. 観光入込客数について
3. 延宿泊者数について
4. 観光消費額について

※ 一部データ集計中、データ分析中のため未定稿

2016年7月1日公表

# 1. 来訪意向度について

## 【概況】

- 首都圏等からの瀬戸内への来訪意向は 2020 年の目標である 50%に向けて、目標値を上回って推移している。
- 国内の旅行需要が減少傾向にあり、北海道や沖縄といった観光地ブランドの来訪以降が低下する中、瀬戸内への来訪意向は年々増加傾向にあった。
- 2015 年においては、前年より下回ったものの、その減少率は北海道、沖縄と比較しても小幅となっている。

※（ ）内は目標値

目 標	区 分	瀬戸内 ブランド 推進協議会	瀬戸内ブランド 推進連合			一般社団法人 せとうち観光 推進機構	
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016～2020年	
首都圏等からの瀬戸内への来訪意向 (%)		23.9 (24.0)	27.9 (25.0)	29.5 (26.0)	27.7 (27.0)	…	(50.0)
[参考] 北海道への 来訪意向 (%)		—	57.4	54.8	50.0		—
沖縄への 来訪意向 (%)		—	51.7	50.4	46.9		—

- データ出典：瀬戸内ブランド実態調査（最新データ 2015 年 11 月実施）

### ■ 調査対象

インターネット調査により、以下のとおり

- ・ 関東地区（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）
- ・ 関西地区（兵庫県（明石以東）、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県）
- ・ 上記地域に居住する 20～69 歳男女個人を無作為に抽出してサンプル調査

## 2. 観光入込客数について

- データ出典

観光庁観光地点等入込客数調査及び観光地点パラメータ調査

- 調査対象

行祭事・イベントに訪れた人数及び観光地点を訪れた観光客

- 算出方法

下記調査を組み合わせて推計

- (1) 観光地点等入込客数調査

都道府県内の観光地点及び行祭事・イベントに訪れた人数を、観光地点の管理者・行祭事・イベントの実施者等の報告により調査

- (2) 観光地点パラメータ調査

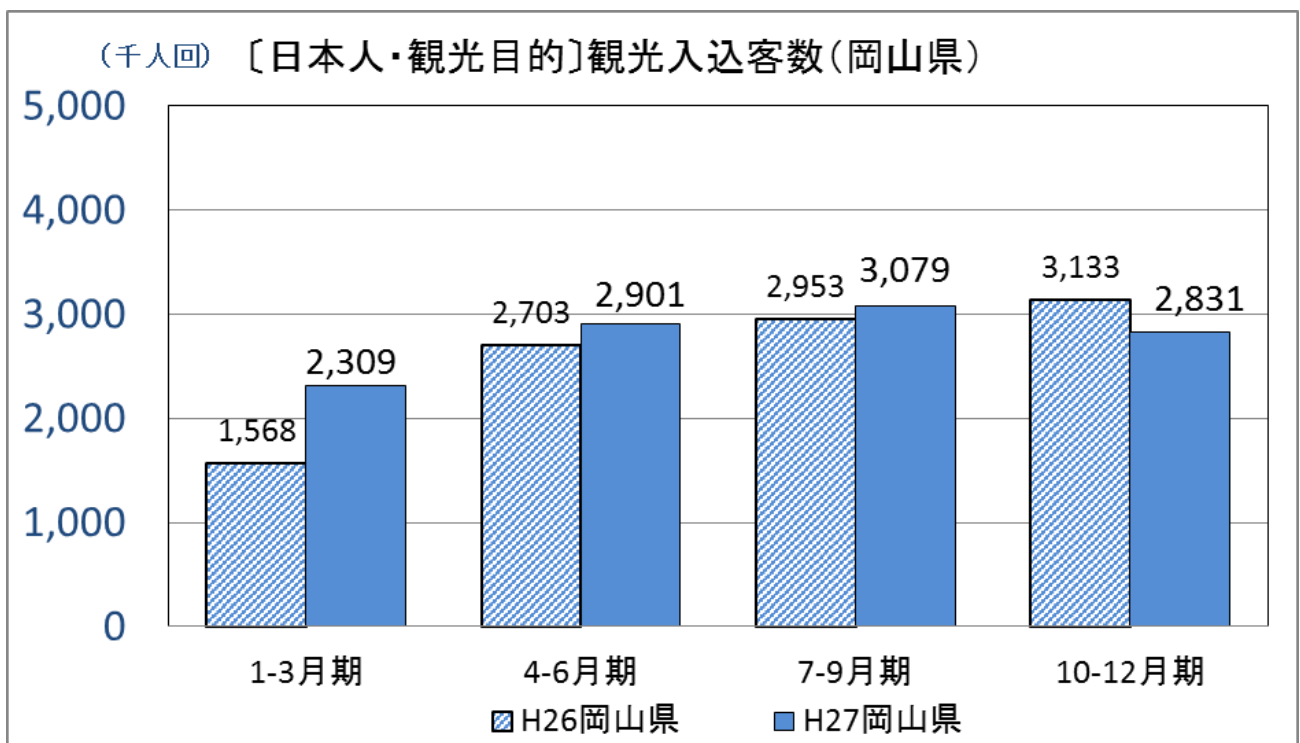
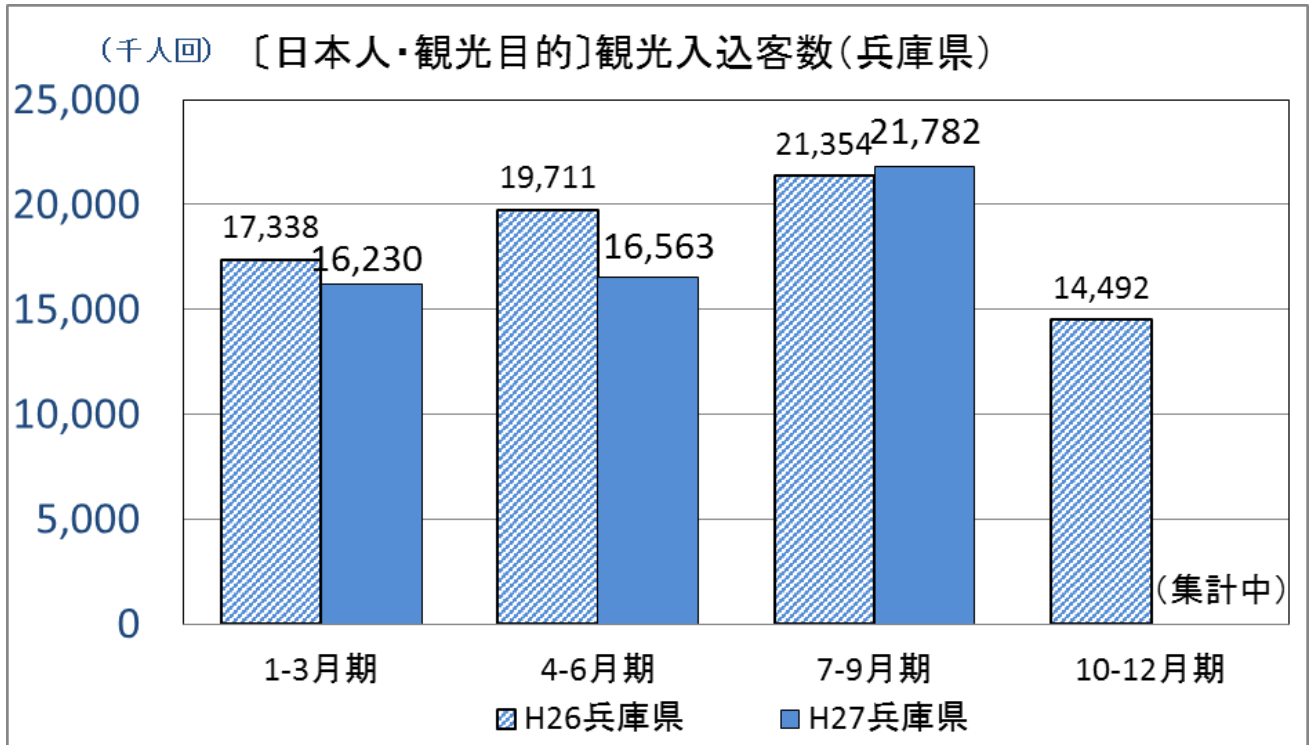
都道府県内の観光地点を訪れた観光客を対象に、訪問地点数・観光地点消費額単価等について調査

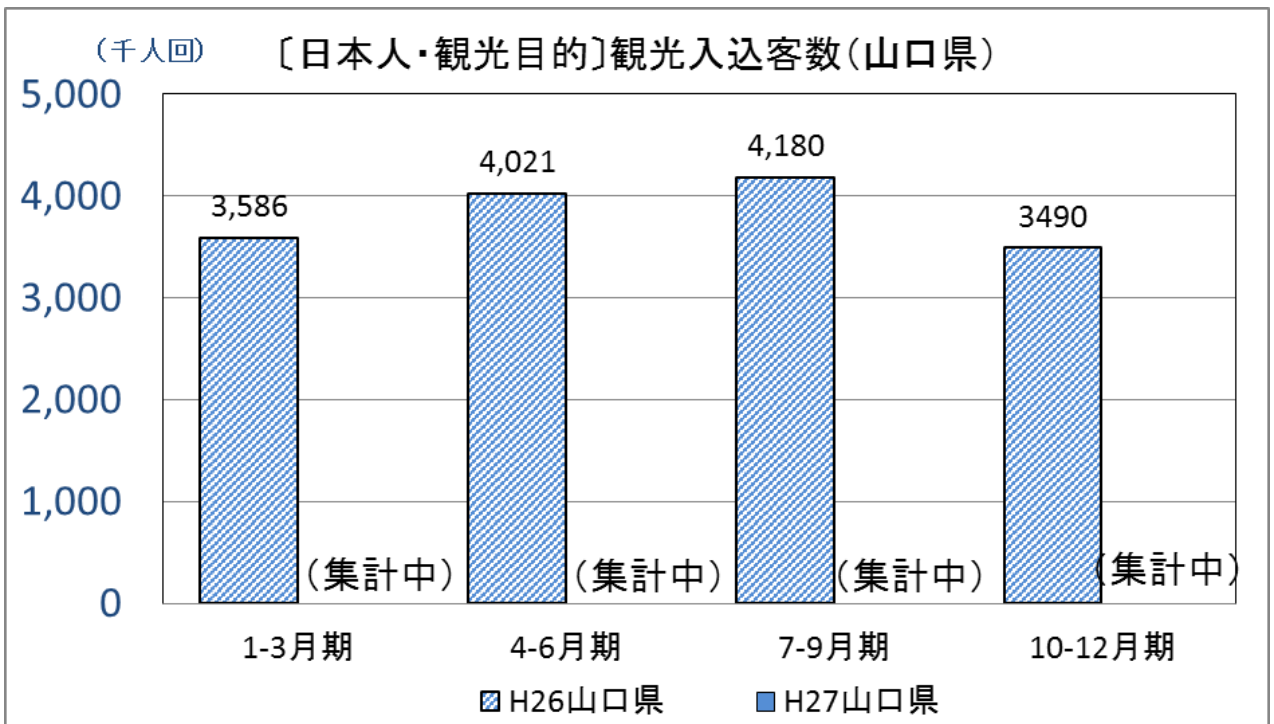
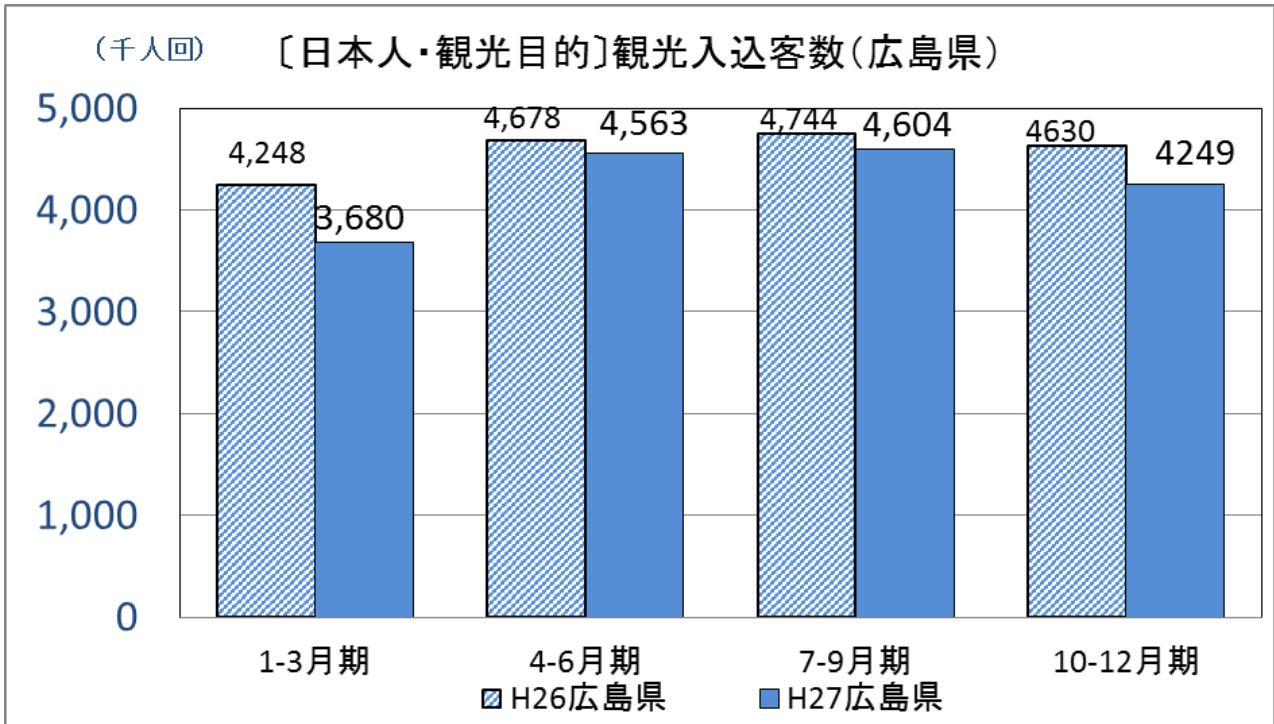
- 四半期の調査結果は速報値であり年間集計において変更される場合がある

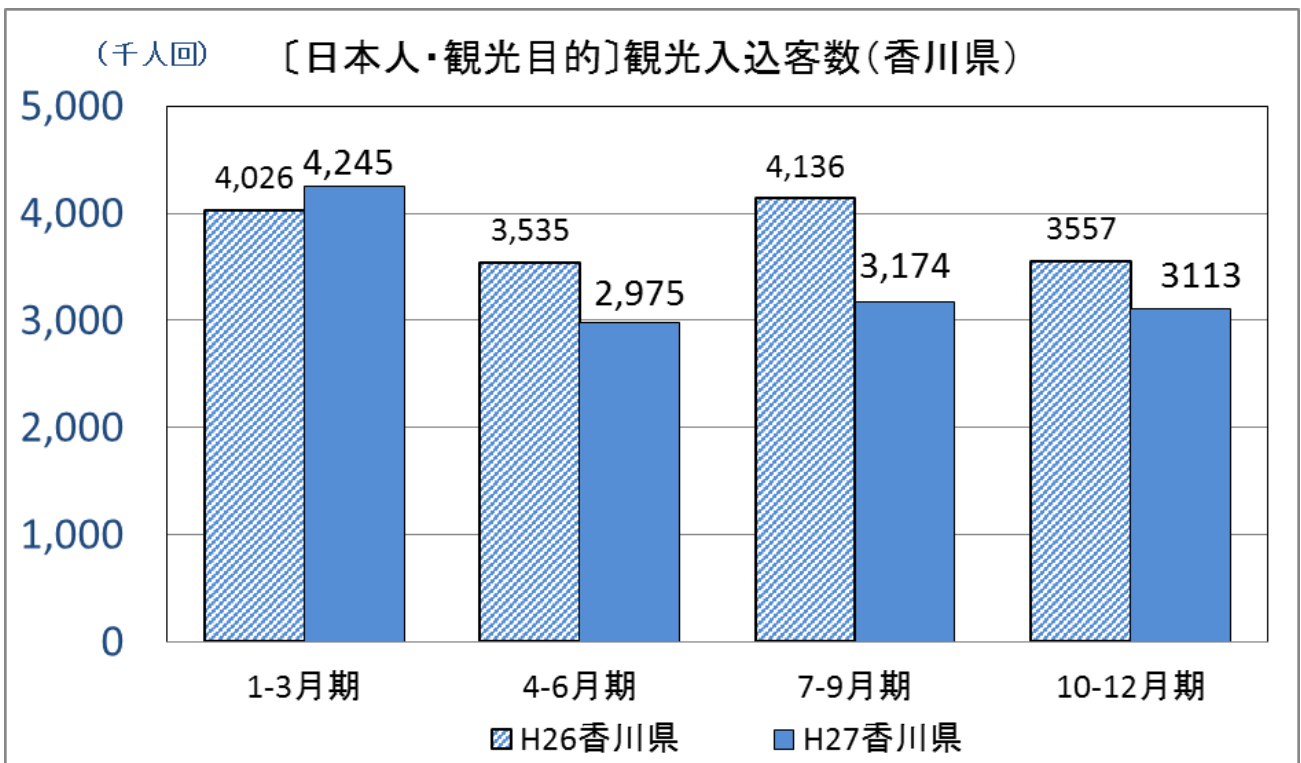
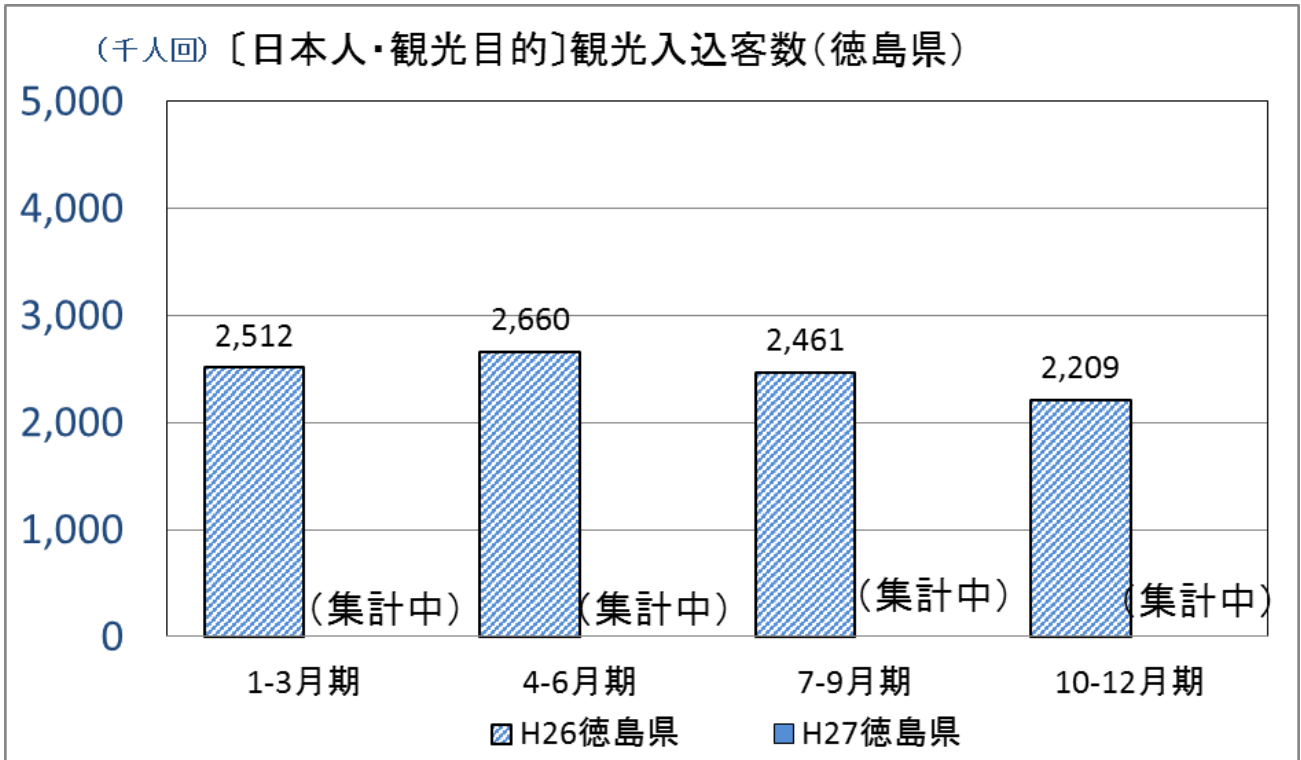
## 1 瀬戸内エリアの観光入込客数の状況（日本人・観光目的 四半期ベース）

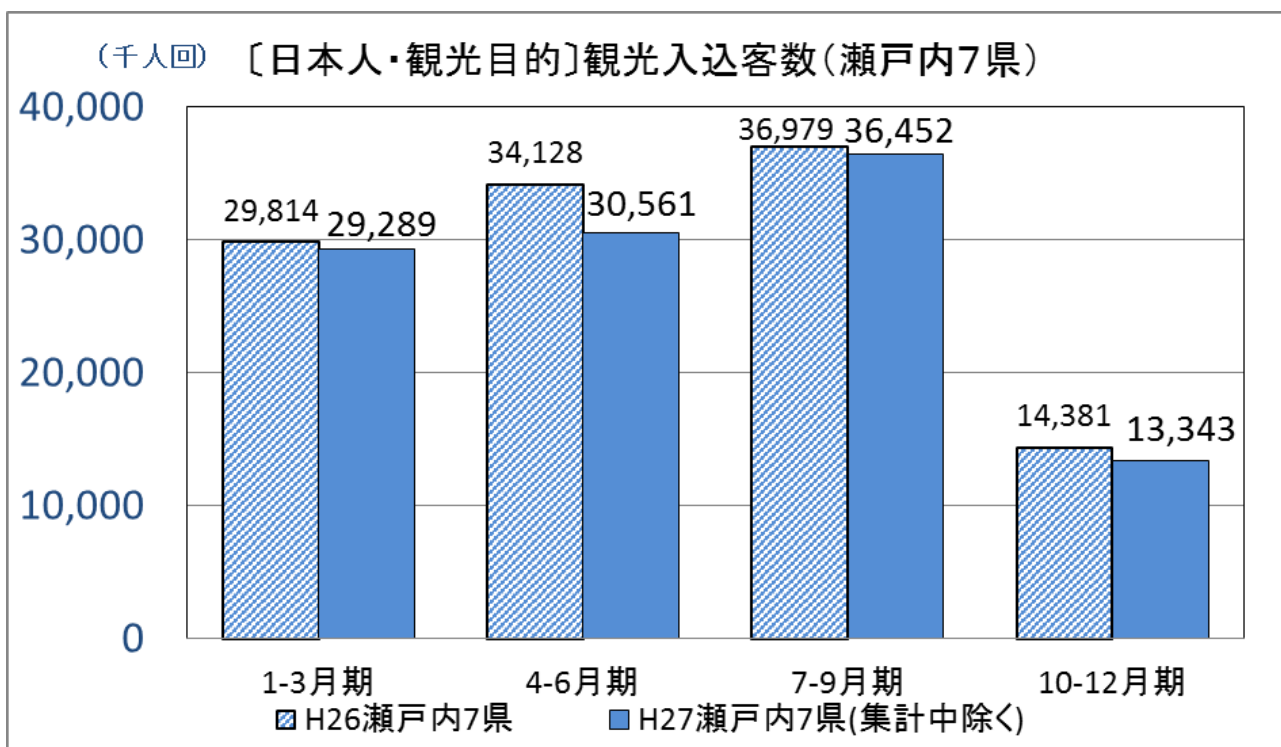
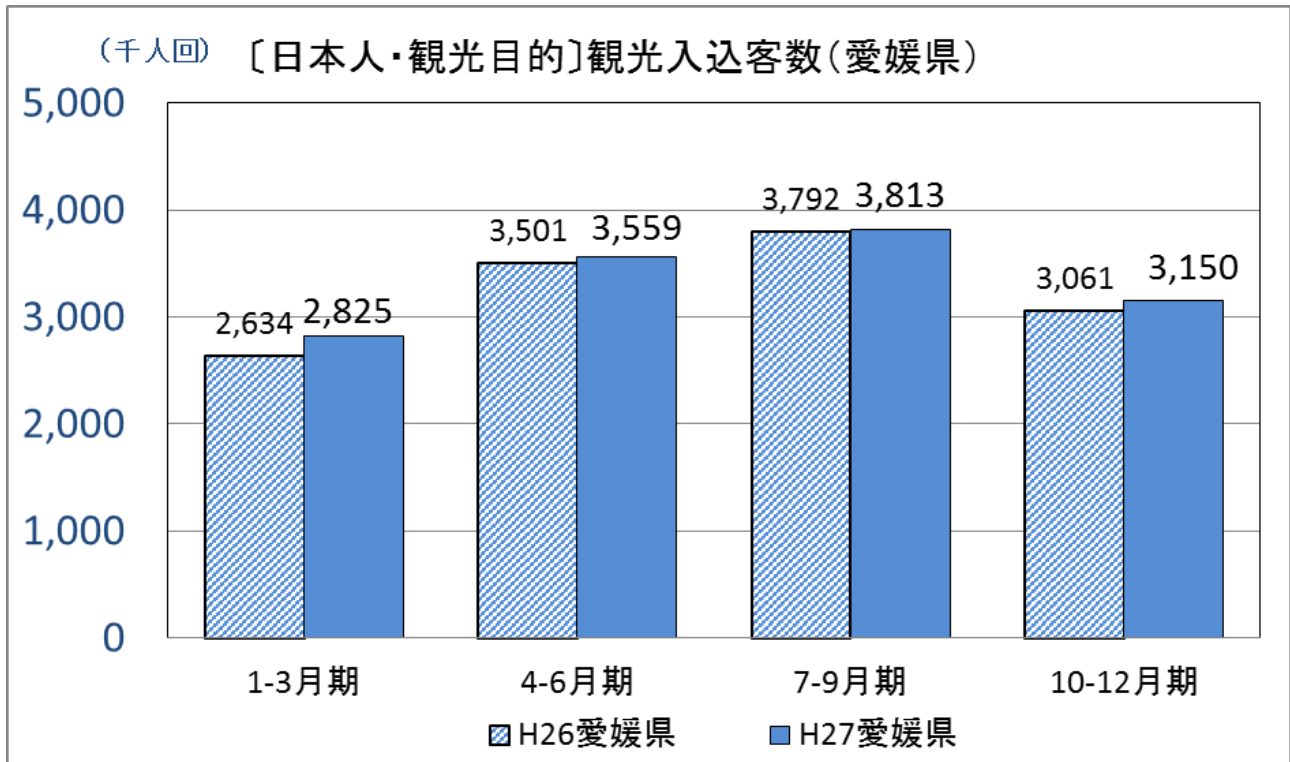
## (1) 各県別推移

■ 日本人の観光入込客は全体的に概ね前年同様か微減傾向にある中で、兵庫県、香川県の落ち込みがやや目立つ。









※各期において山口県、徳島県の数字は除いている (H27 集計中)

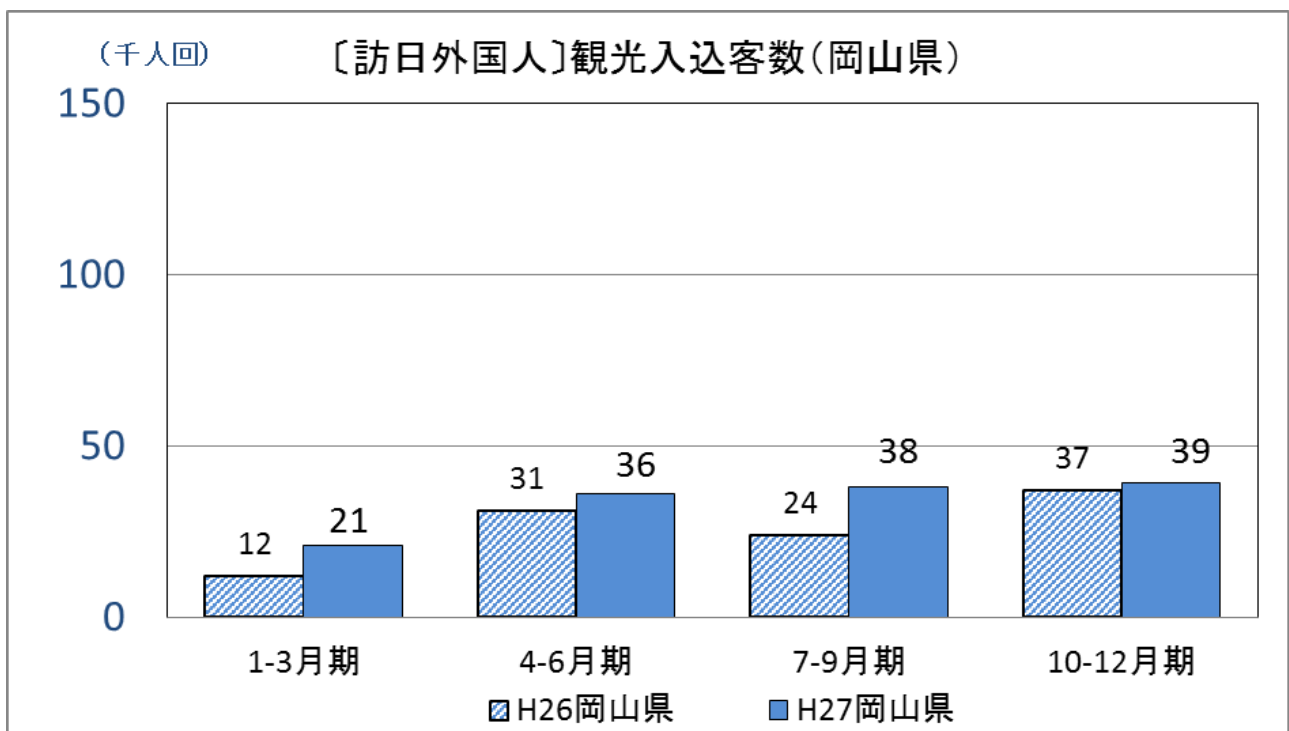
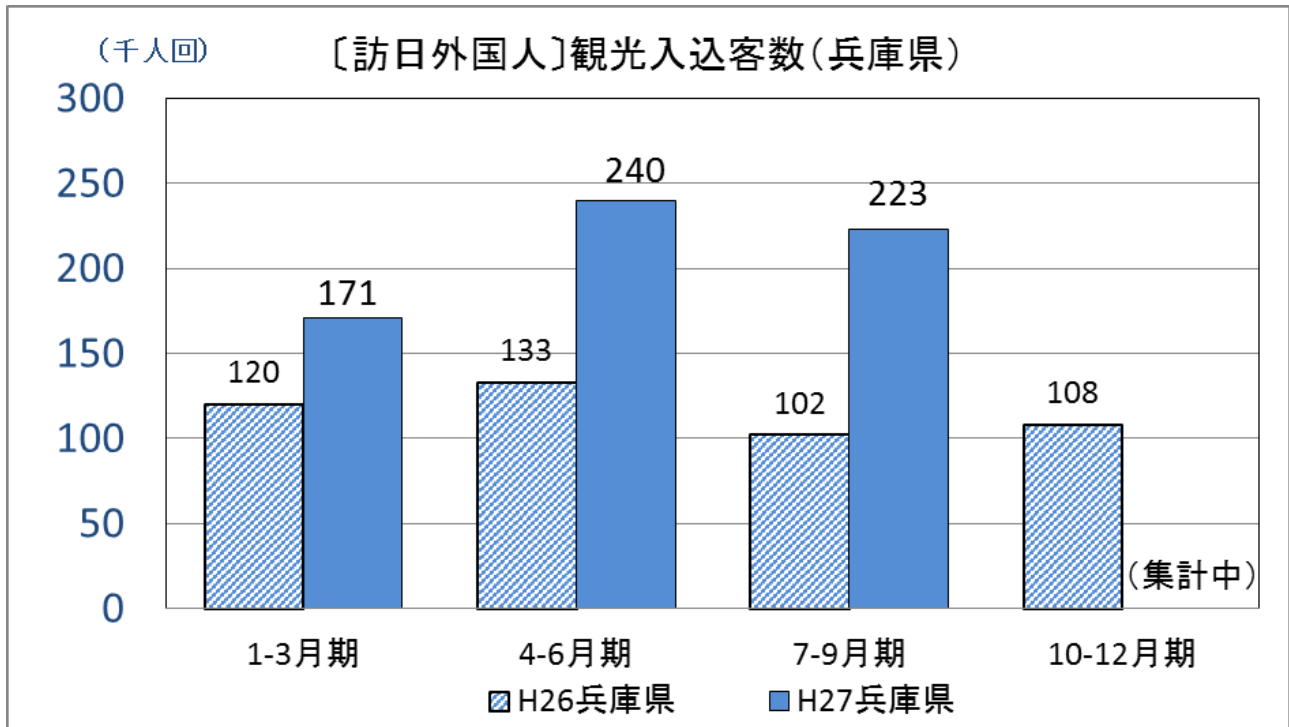
※10-12月期において、兵庫県の数値は除いている (同)



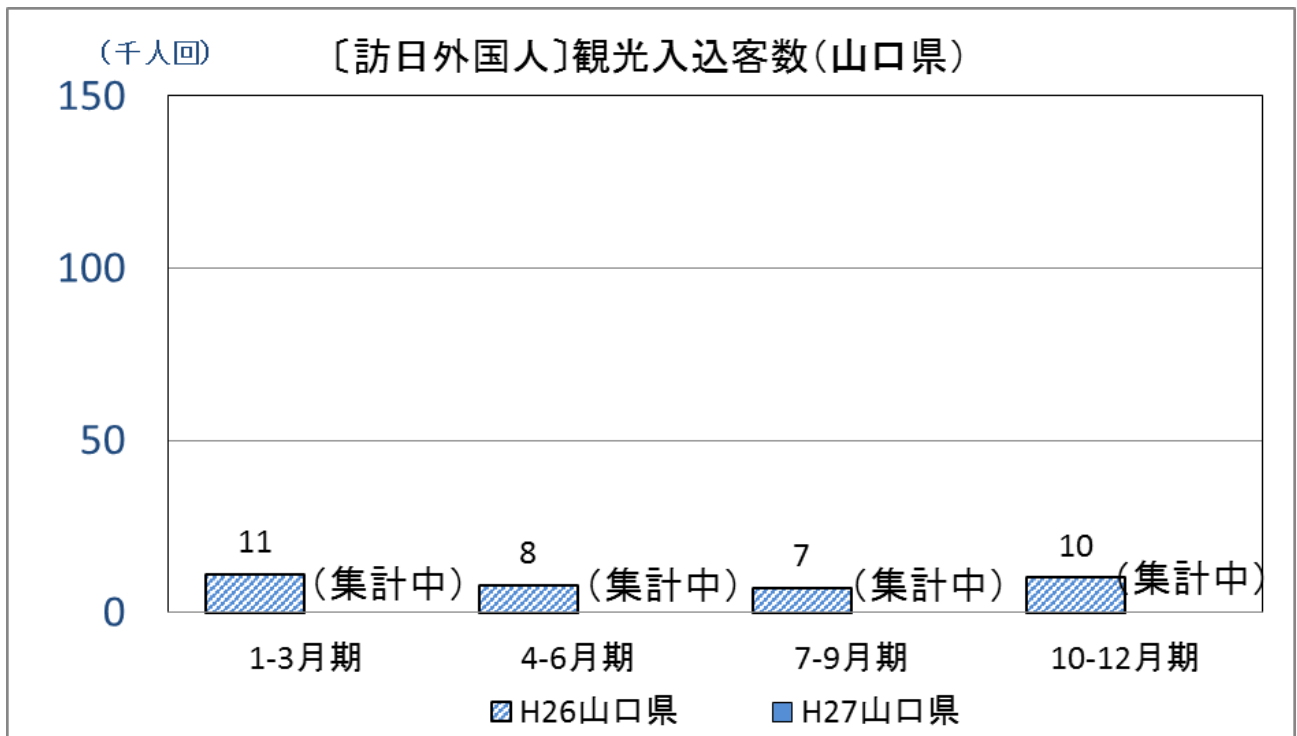
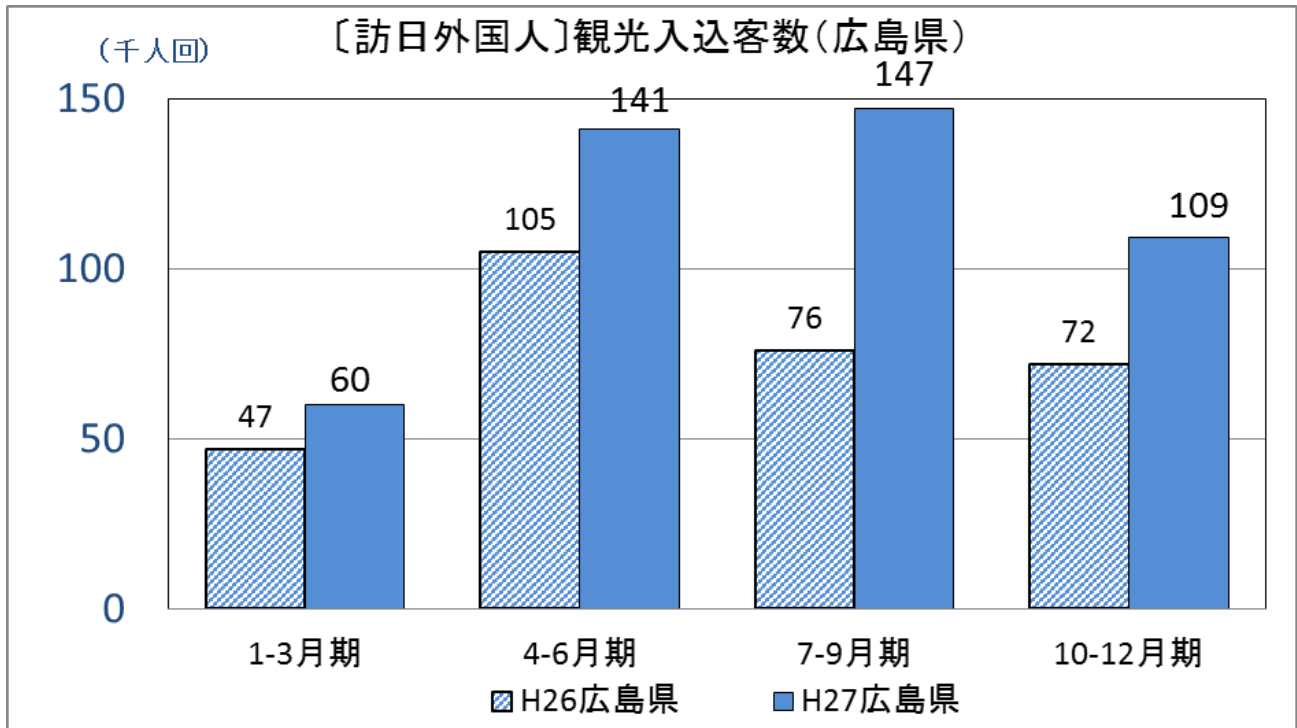
## 2 瀬戸内エリアの観光入込客数の状況（訪日外国人 四半期ベース）

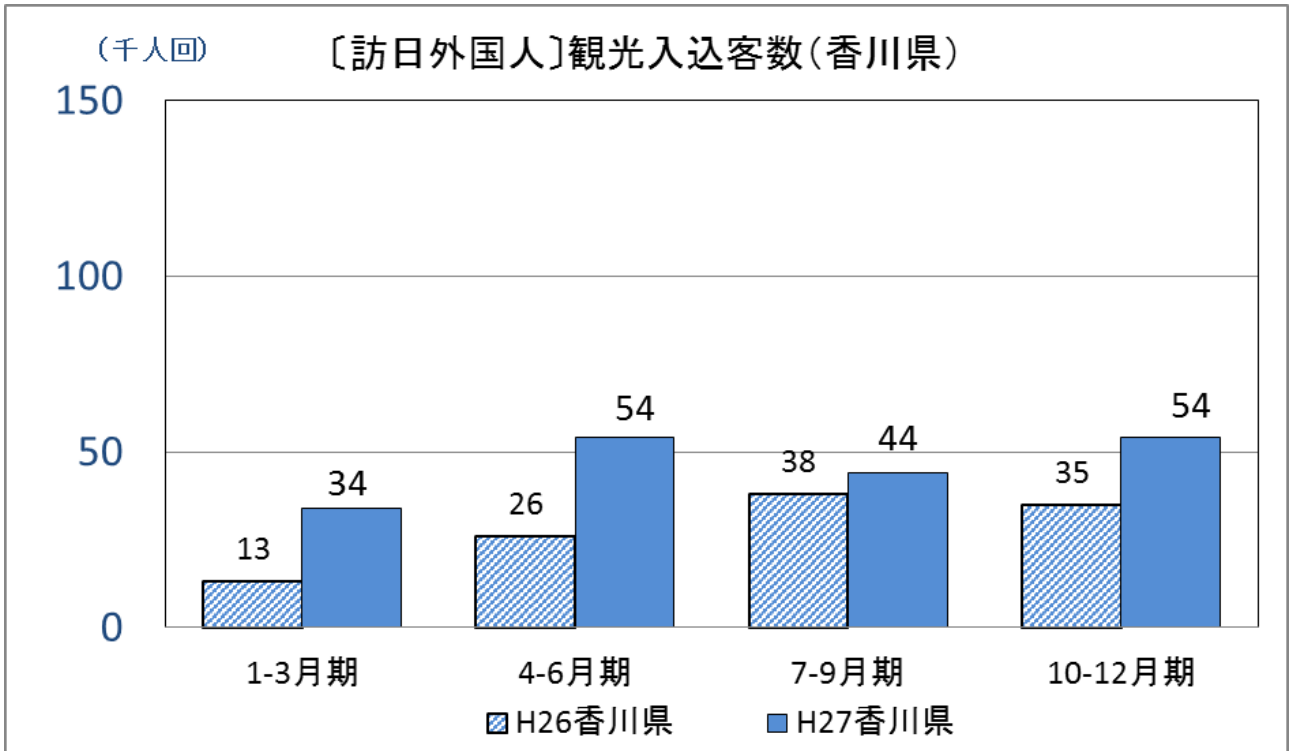
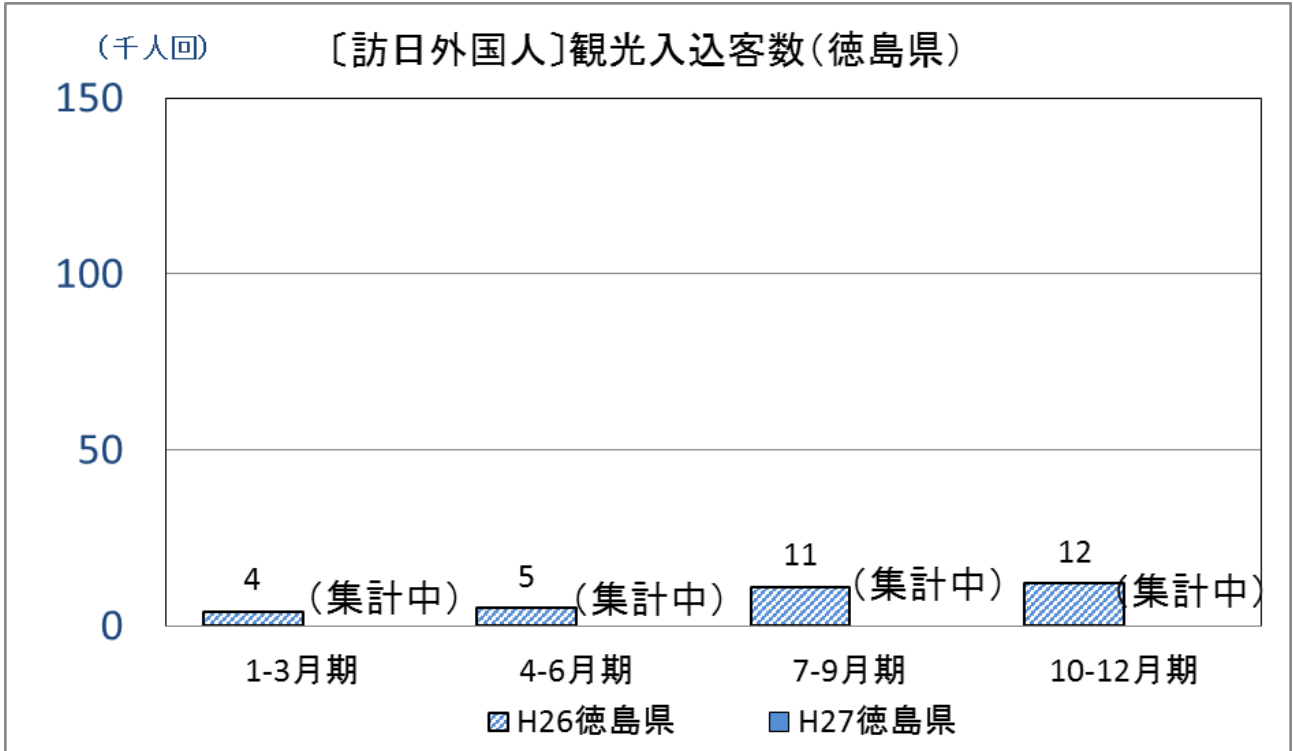
### （1） 各県別推移

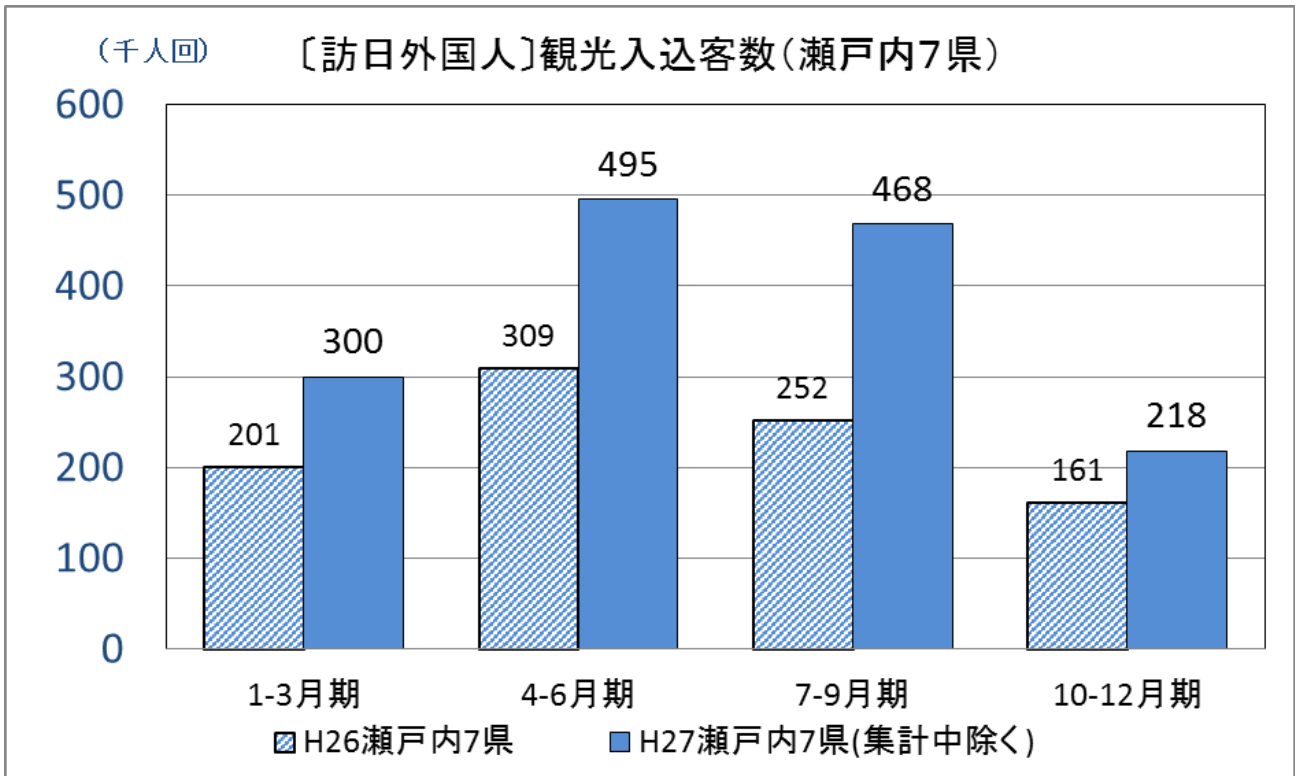
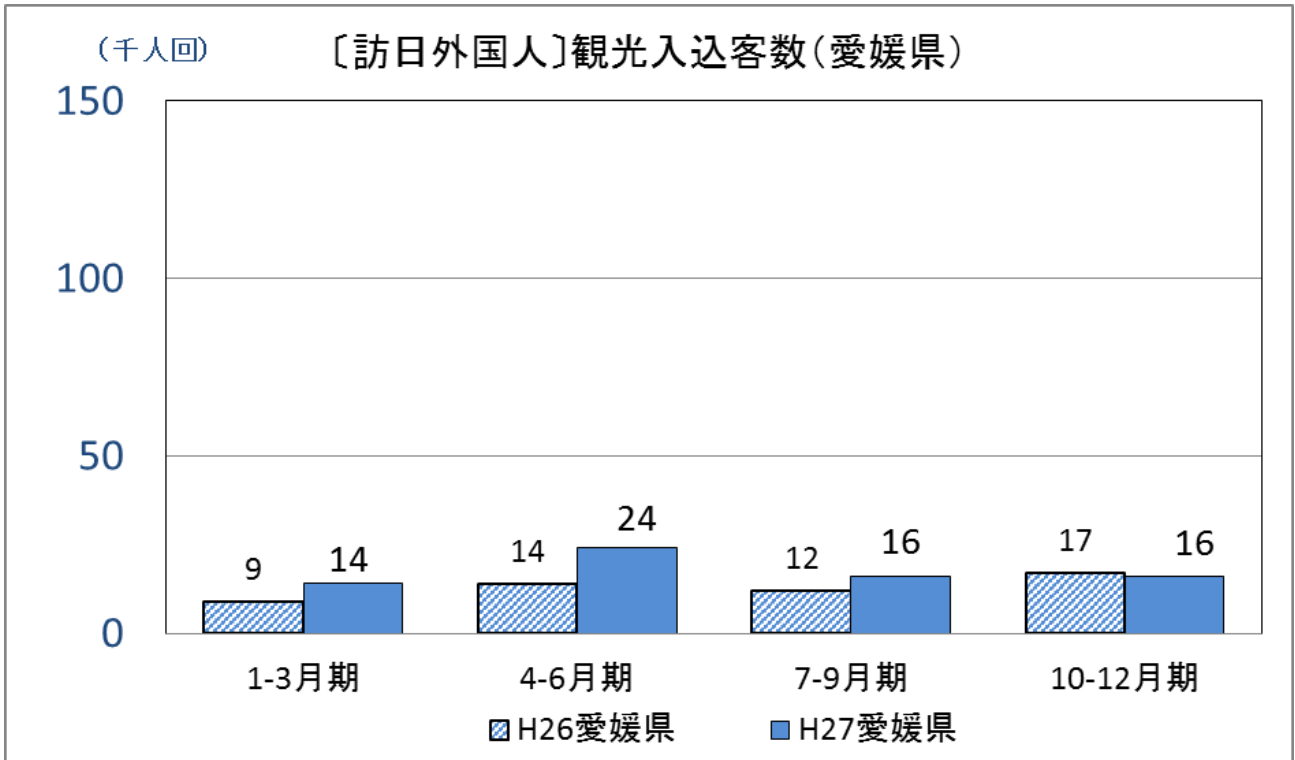
■ 訪日外国人の観光入込客は各県とも順調に伸びており、中でも関空 I N の入込増の影響を受ける兵庫県やアジア系新規就航が寄与する広島県の伸びが顕著である。











※各期において山口県、徳島県の数字は除いている (H27 集計中)

※10-12月期において、兵庫県の数値は除いている (同)

### 3. 延宿泊者数について

- データ出典 観光庁宿泊旅行統計

- 調査対象

統計法第27条に規定する事業所母集団データベース（総務省）を基に、標本理論に基づき抽出されたホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所などで、従業者数に応じて以下のとおり。

- ・ 従業者数10人以上の事業所：全数調査
- ・ 従業者数5人～9人の事業所：1/3を無作為に抽出してサンプル調査
- ・ 従業者数0人～4人の事業所：1/9を無作為に抽出してサンプル調査

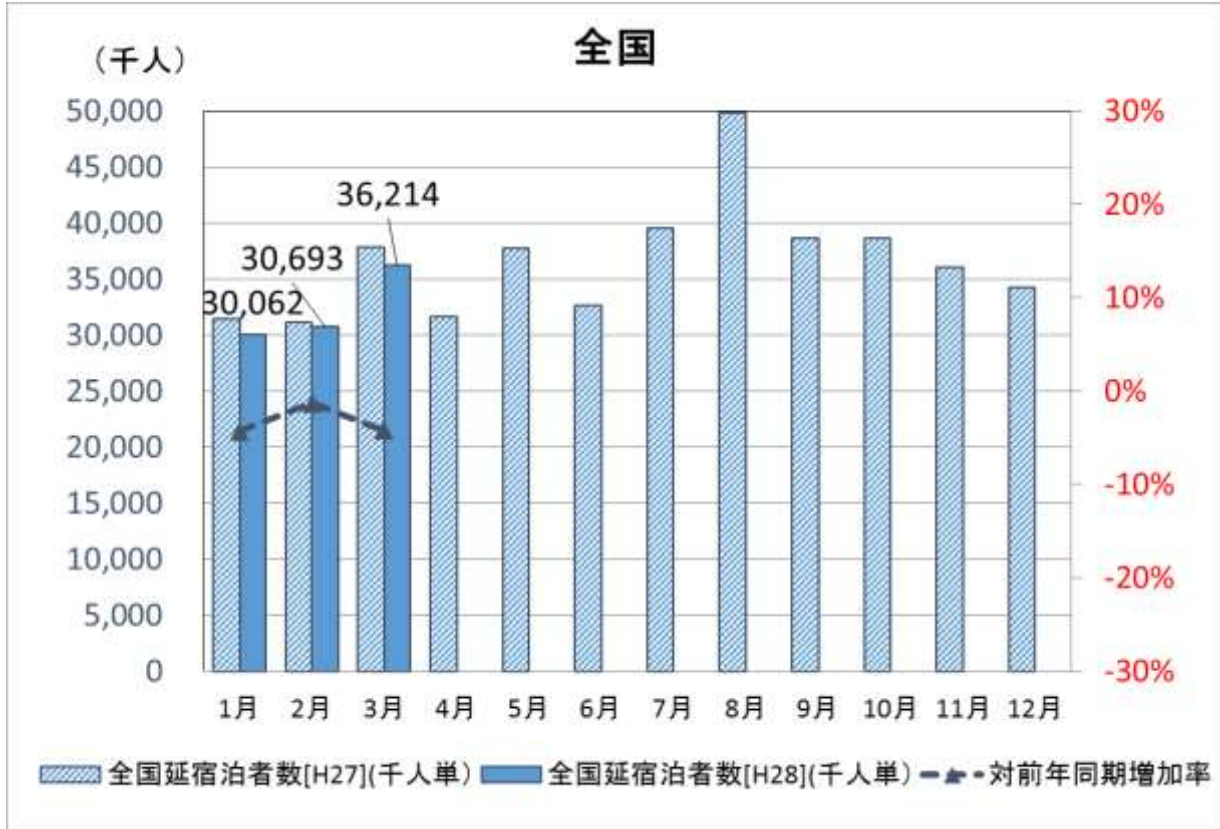
- 国内延宿泊者数については、全体と外国人延宿泊者数の差により算出

## 1 瀬戸内エリアの国内延宿泊者数の状況（平成28年1月～3月）

## (1) 全国状況と瀬戸内エリア状況

## 【概況】

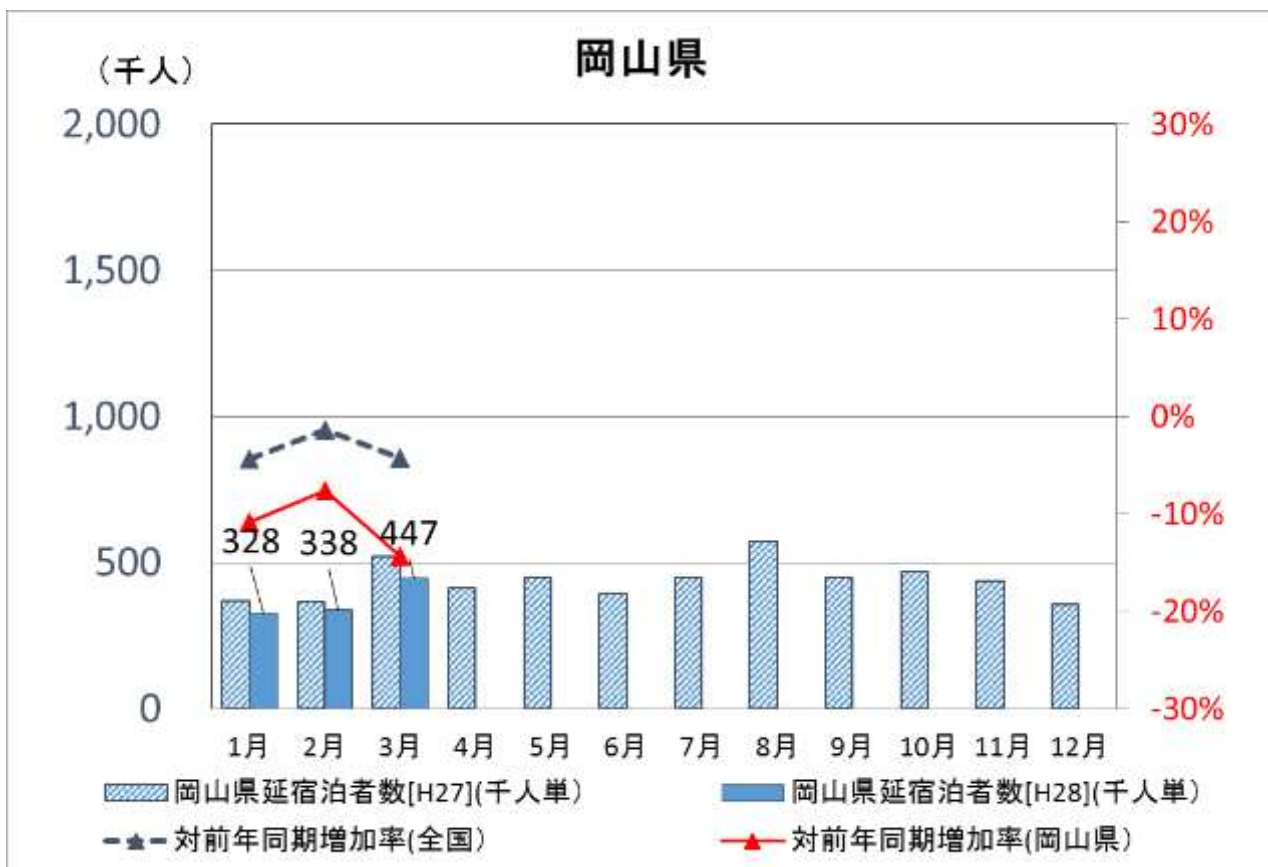
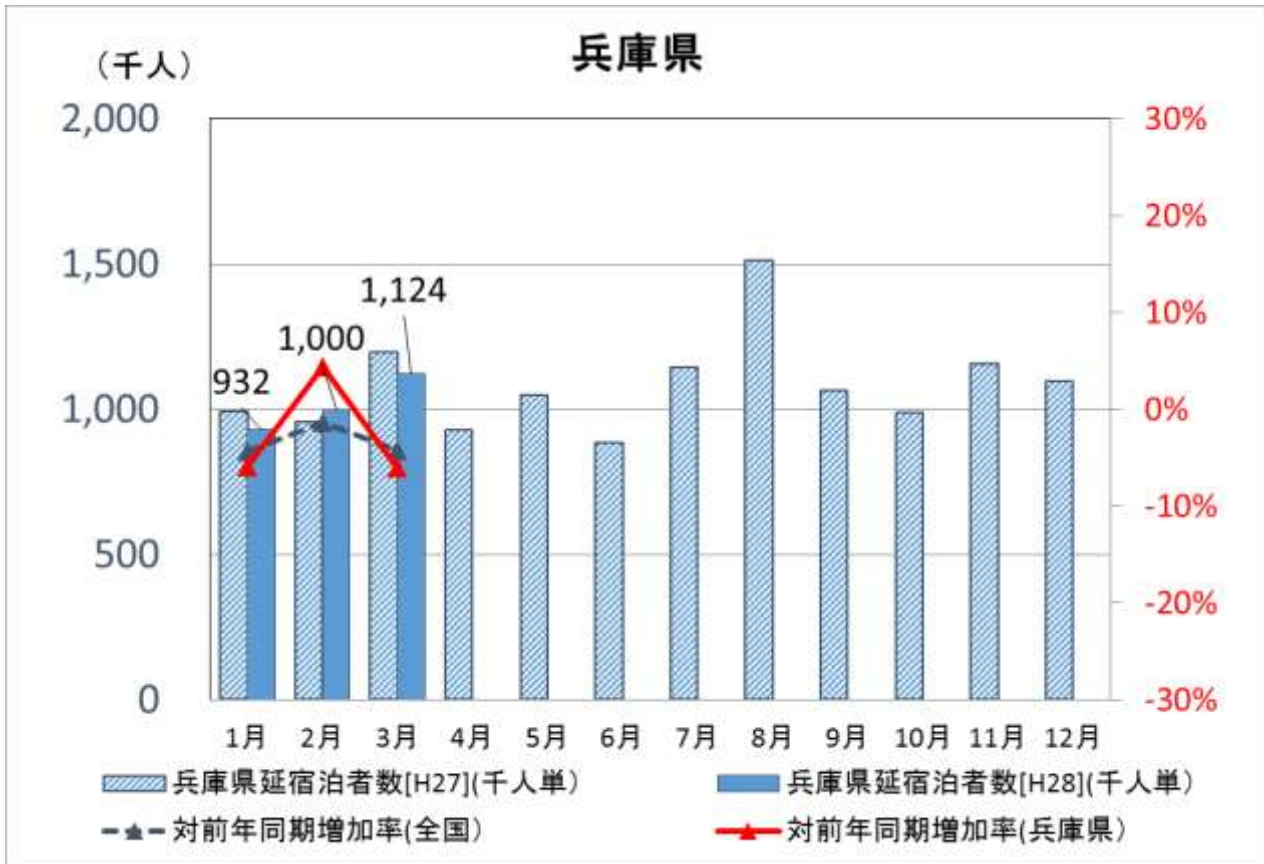
- 国内延宿泊者数は対前年同期と比較すると全国的に微減傾向にあるが、瀬戸内エリアでは、2月期について微増が見られる。



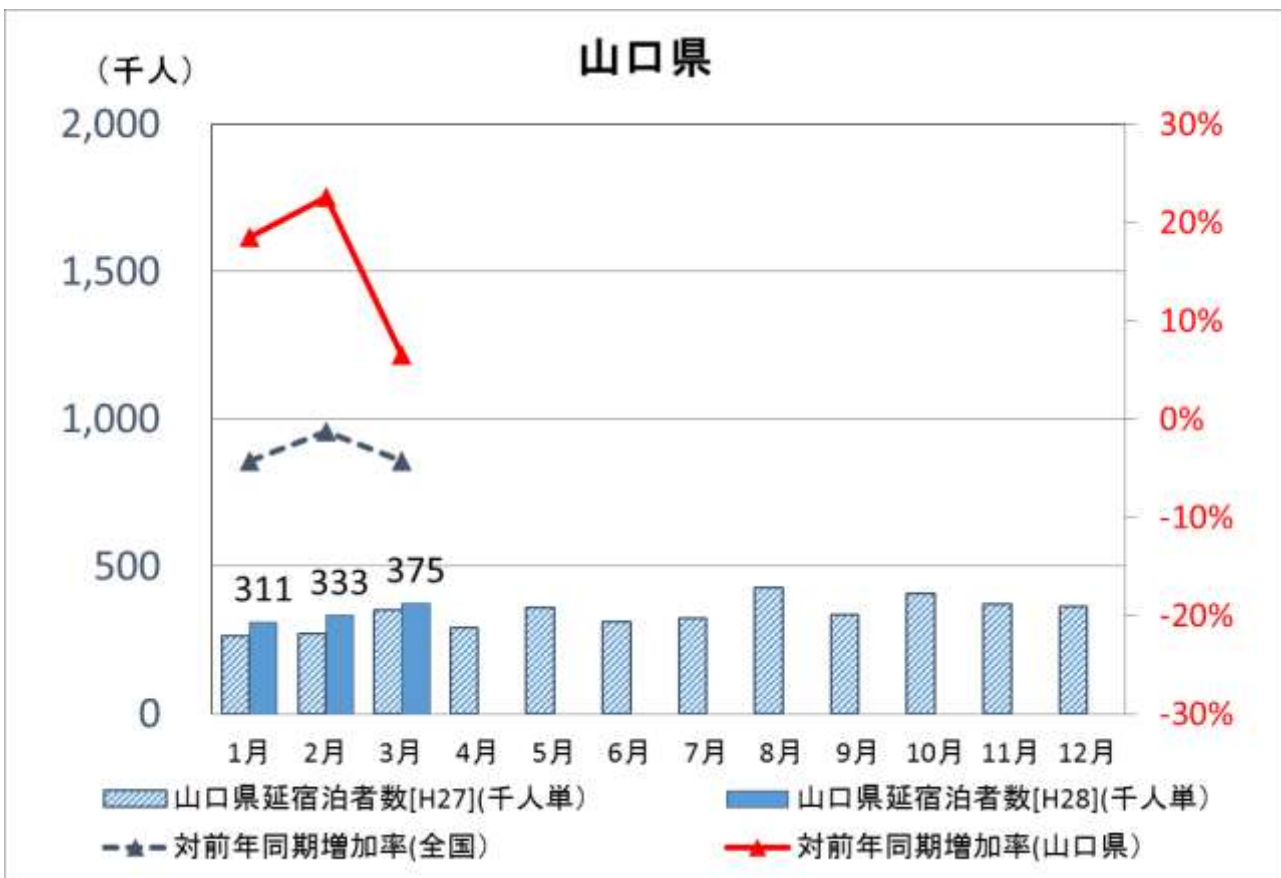
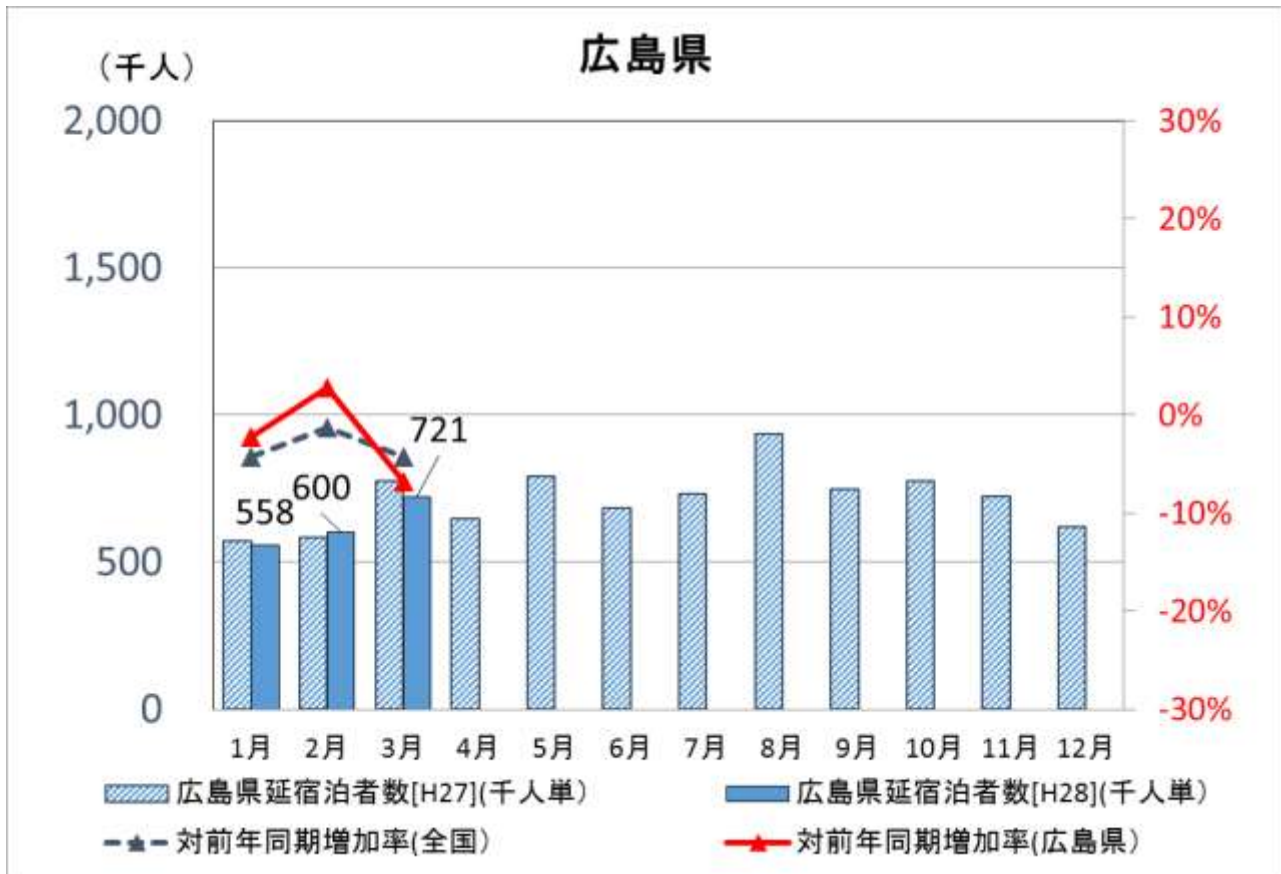
## (2) 各県別推移

## 【概況】

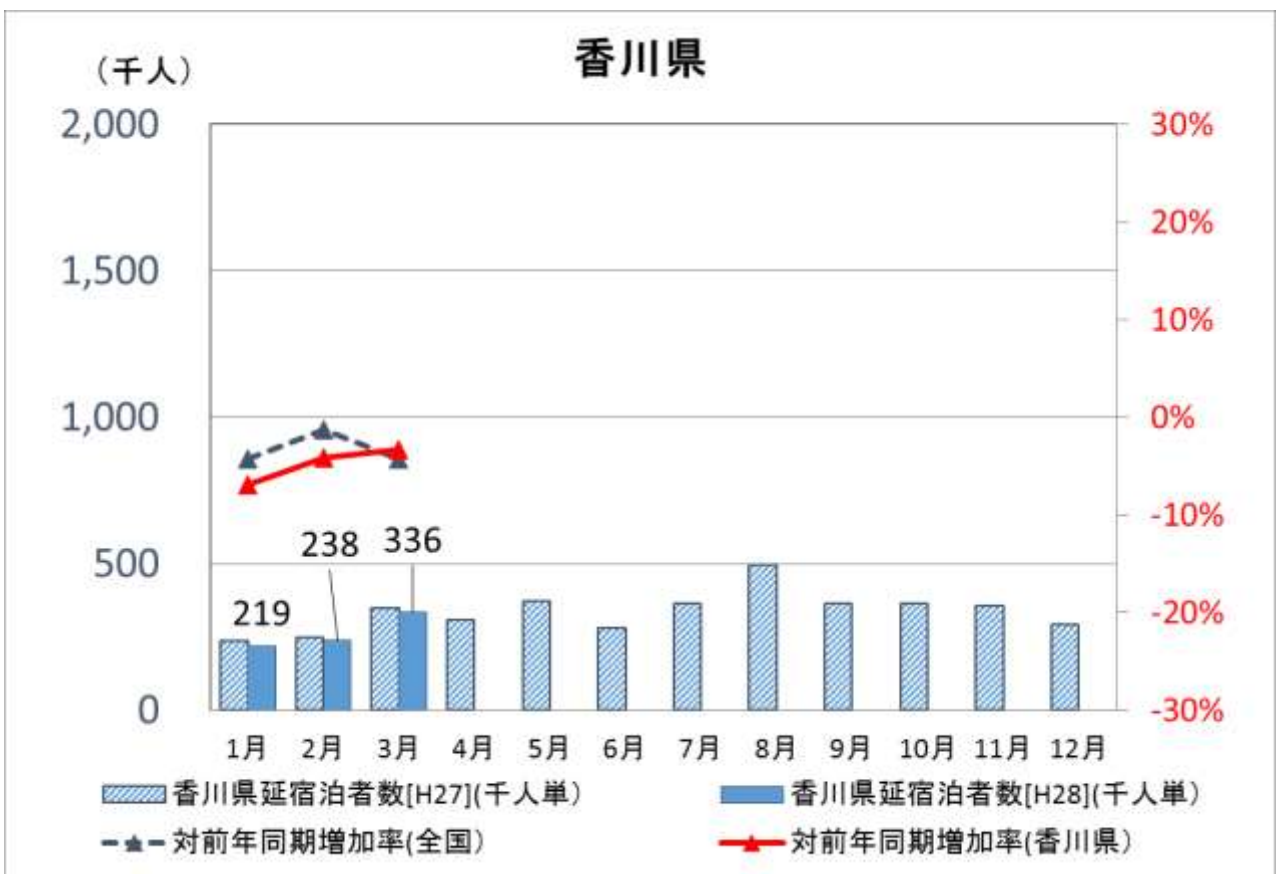
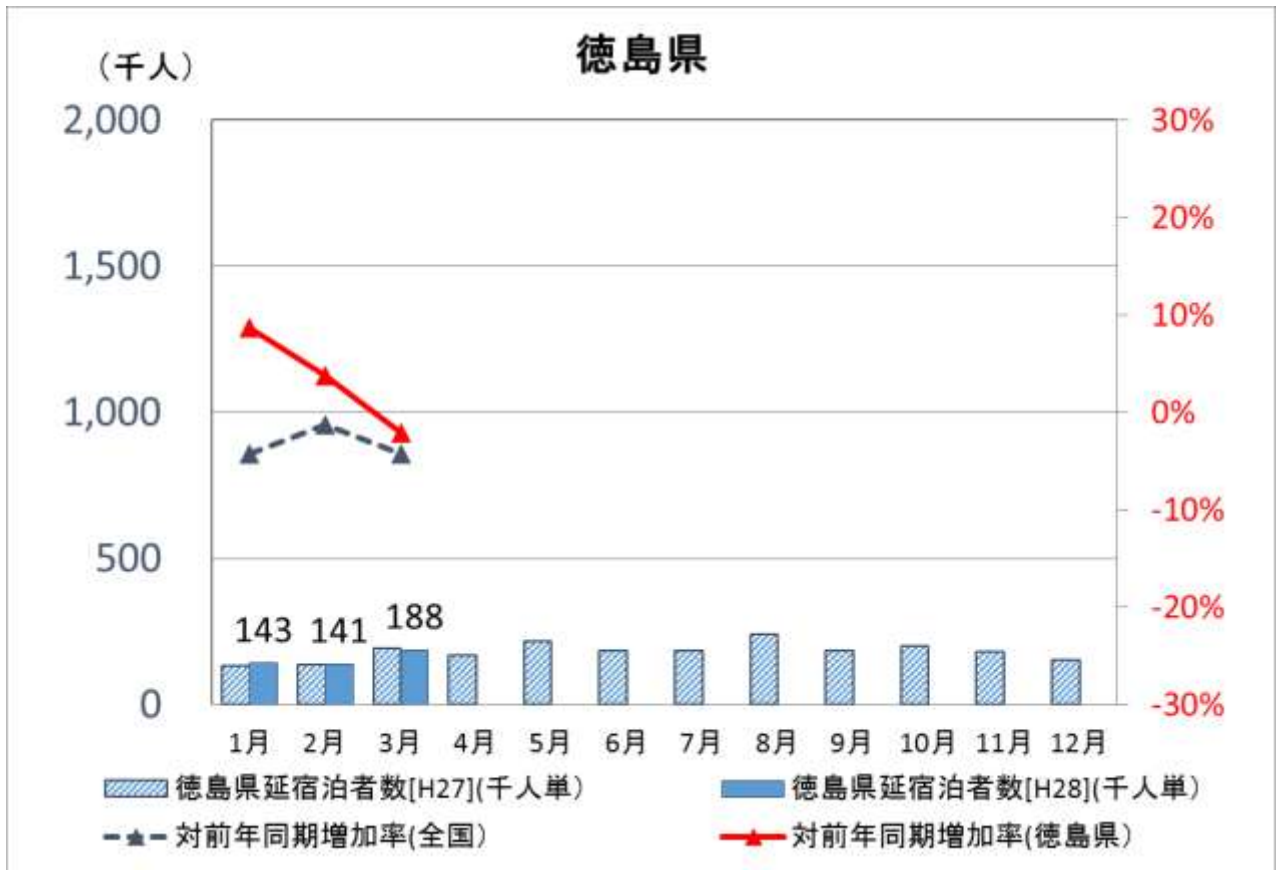
- 山口県、徳島県、愛媛県については対前年同期と比較して1月から3月を通じて増加が見られる。

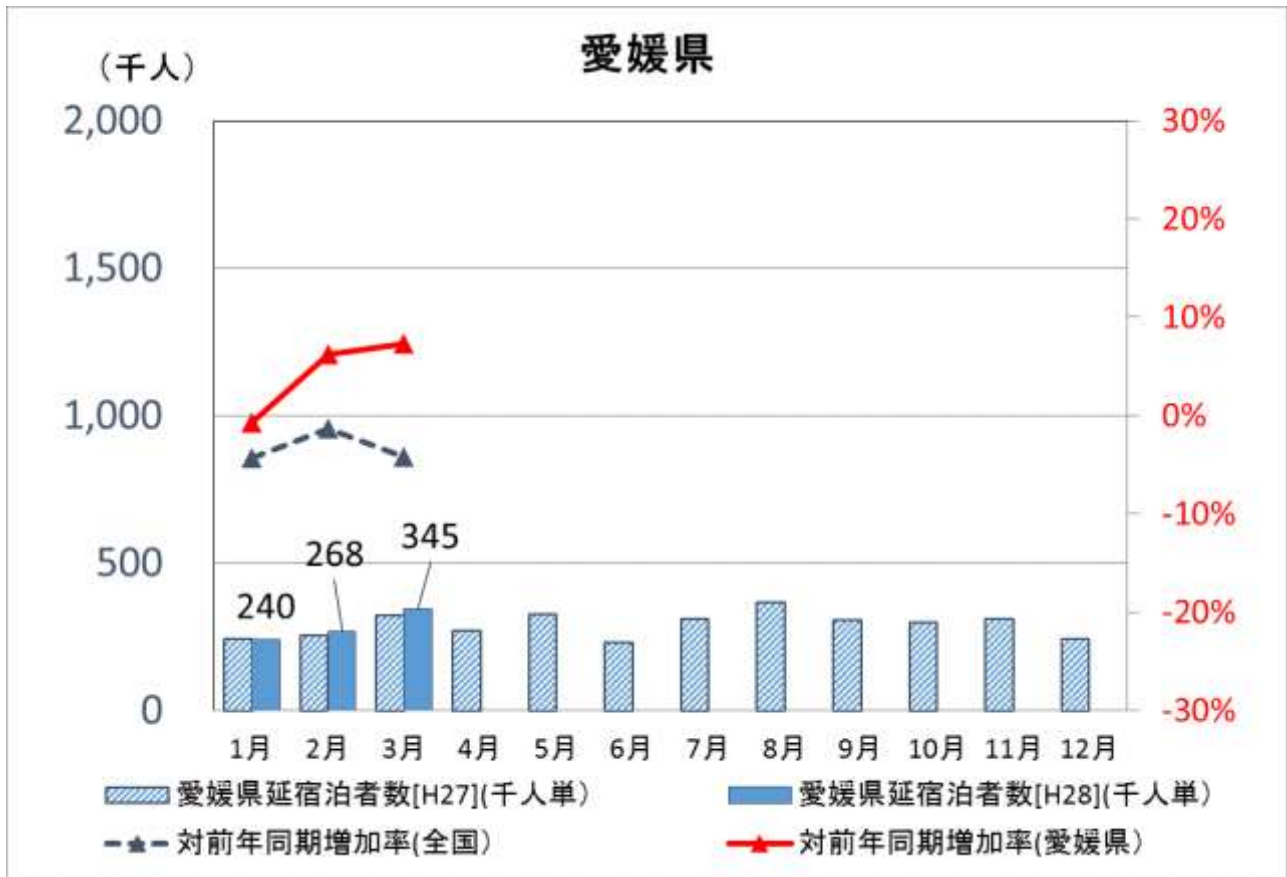












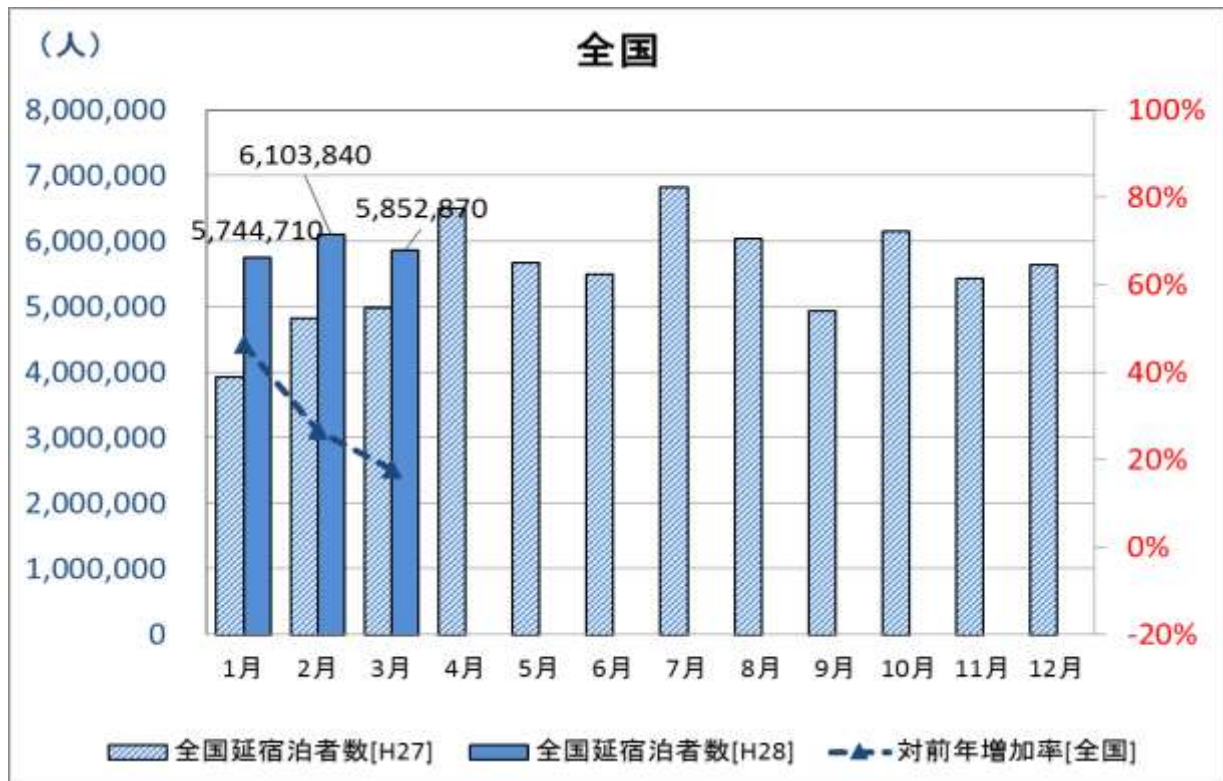
## 2 瀬戸内エリアの外国人延宿泊者数の状況（平成28年1月～3月）

※日本政府観光局（JNTO）市場動向トピックスを参照

## (1) 全国状況と瀬戸内エリア状況

## 【概況】

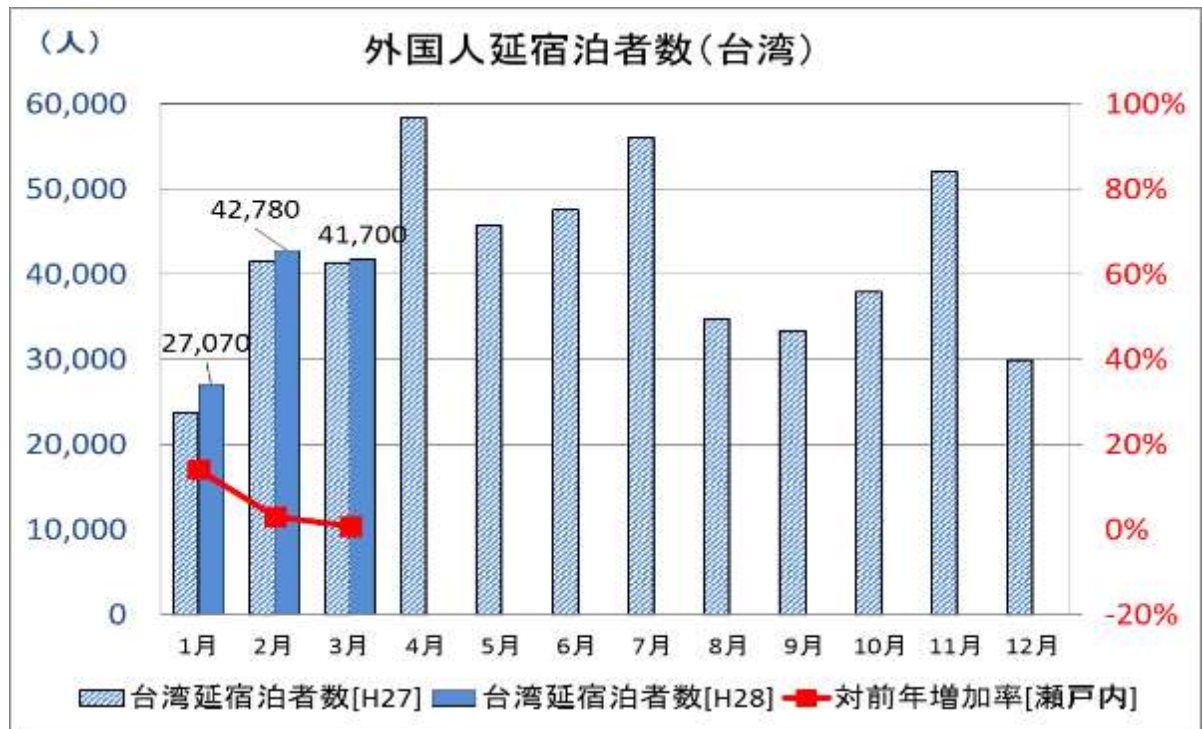
- 外国人延宿泊者数は対前年同期と比較すると全国的、瀬戸内ともに前年を上回るが、全国状況としては、その伸び率は鈍化している。その一方で、瀬戸内エリアは20%台で安定した伸び率が認められる。



## (2) 瀬戸内エリア国別概況

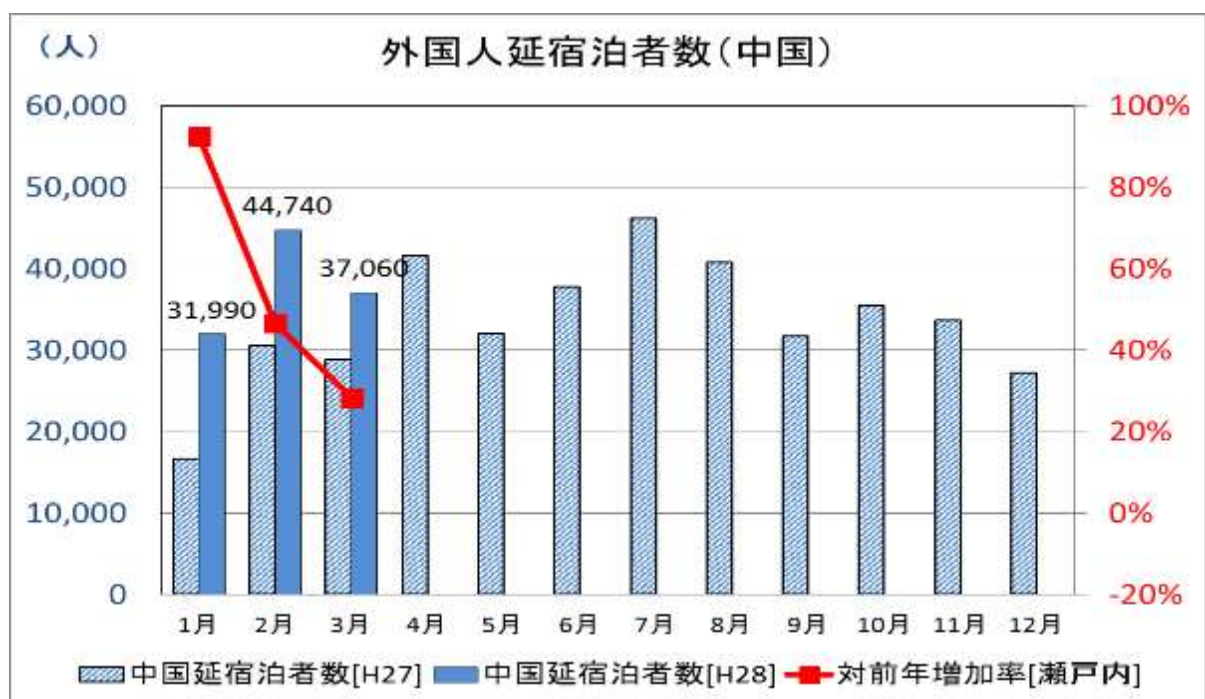
## ①台湾

持続的な訪日旅行人気により各県で好調を維持しているが、兵庫県で大きく落ち込みが見られ、瀬戸内全体では昨年度同期並み。全国的には、昨年6月を底とした円高による訪日旅行への悪影響が懸念されており、今後の情報収集が重要。



## ②中国

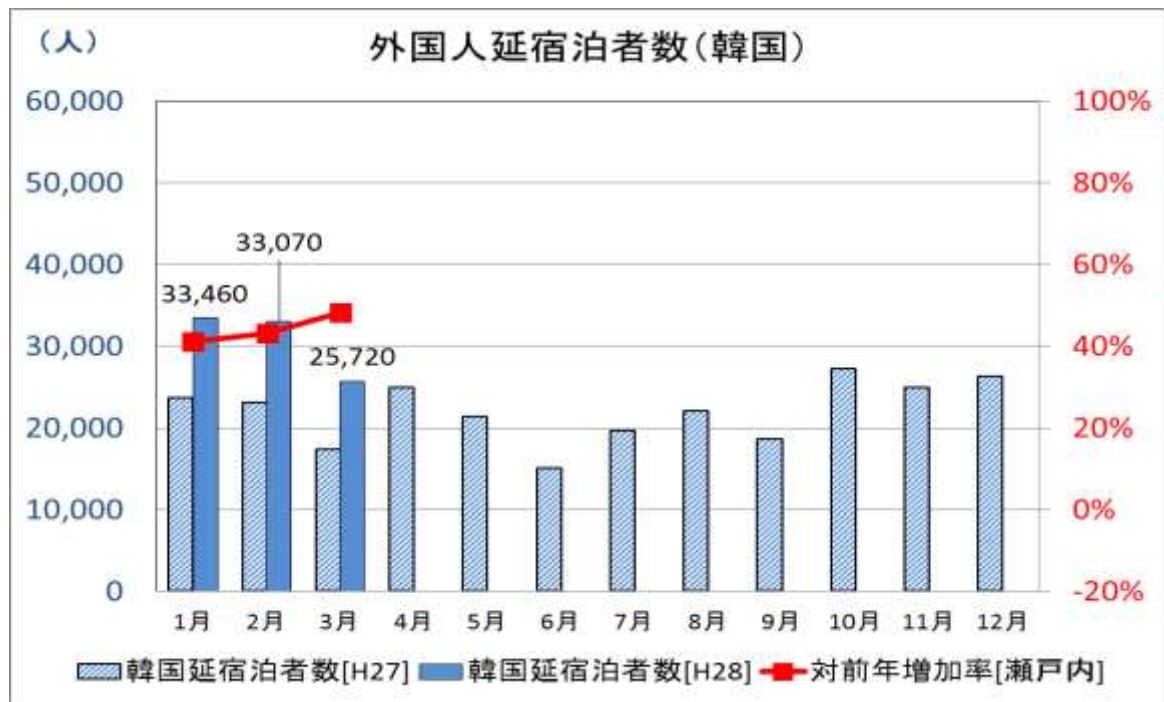
中国の学校の冬休みが昨年と比べ1週間ほど早く始まり、春節前の家族旅行需要が1月に前倒しされたことにより、1月は需要が拡大したと言われており、同様に瀬戸内でも大幅に増加しているものと思われる。





## ③ 韓国

円安により、訪日旅行中の消費に割安感が得られる状況が続いていること、欧州などで発生したテロや東南アジアなどでのジカ熱といった不安から、旅行先として日本が選ばれやすくなっているとされており、瀬戸内にも波及しているものと思われる。



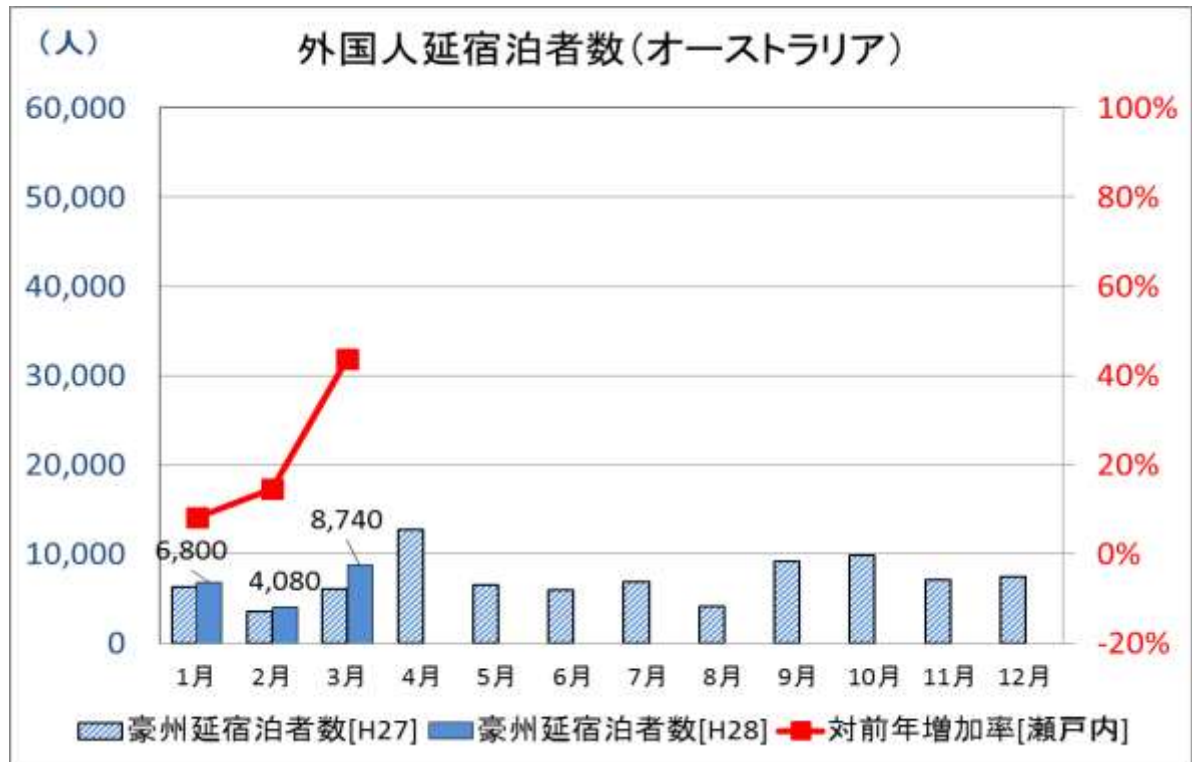
## ④ 香港

昨年、広島にドラゴン航空および香港エクスプレス航空が新規就航して注目を集めたことなどから好調が続いている。特に3月については連休中に桜の開花が予報されていた九州、四国、関西地方など西日本が選好されたともと思われる。



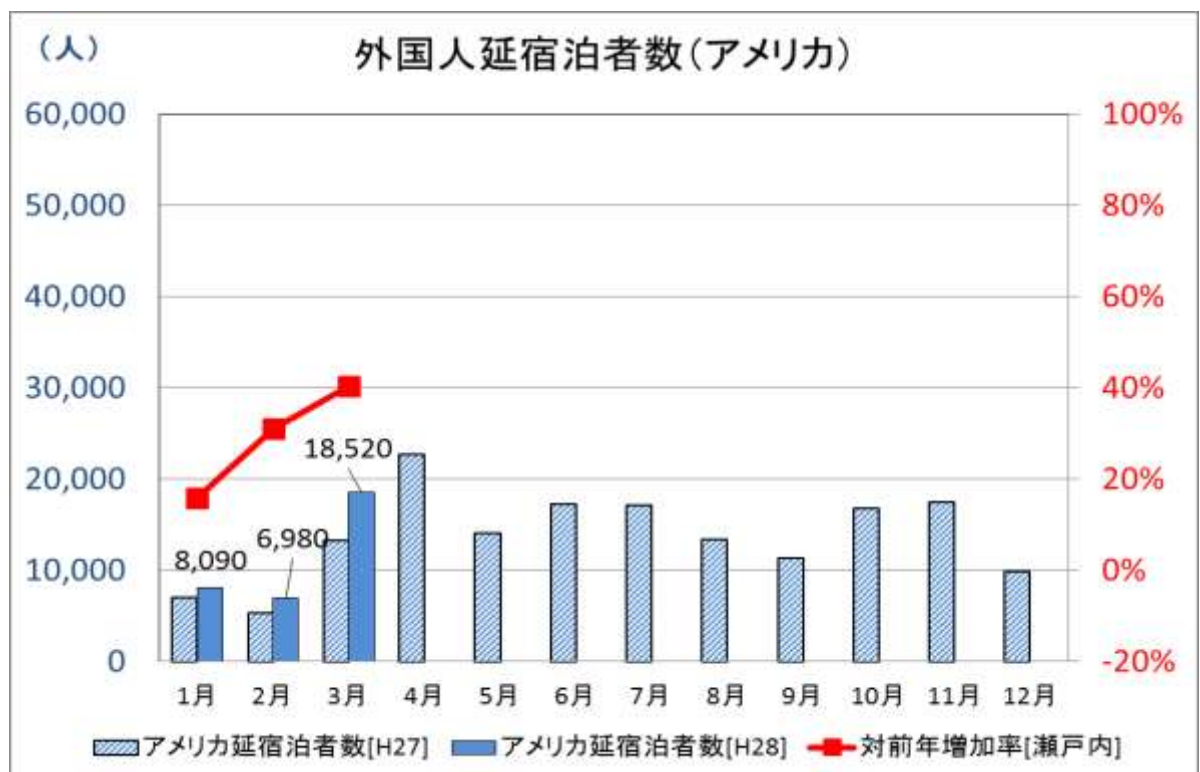
## ⑤オーストラリア

昨年8月に就航したカンタス航空のブリスベン-成田線、シドニー-羽田線などの影響により全国的に増加するなか、瀬戸内においても効果が波及しているものと思われる。特に桜の時期に向け3月の増加が大きい。



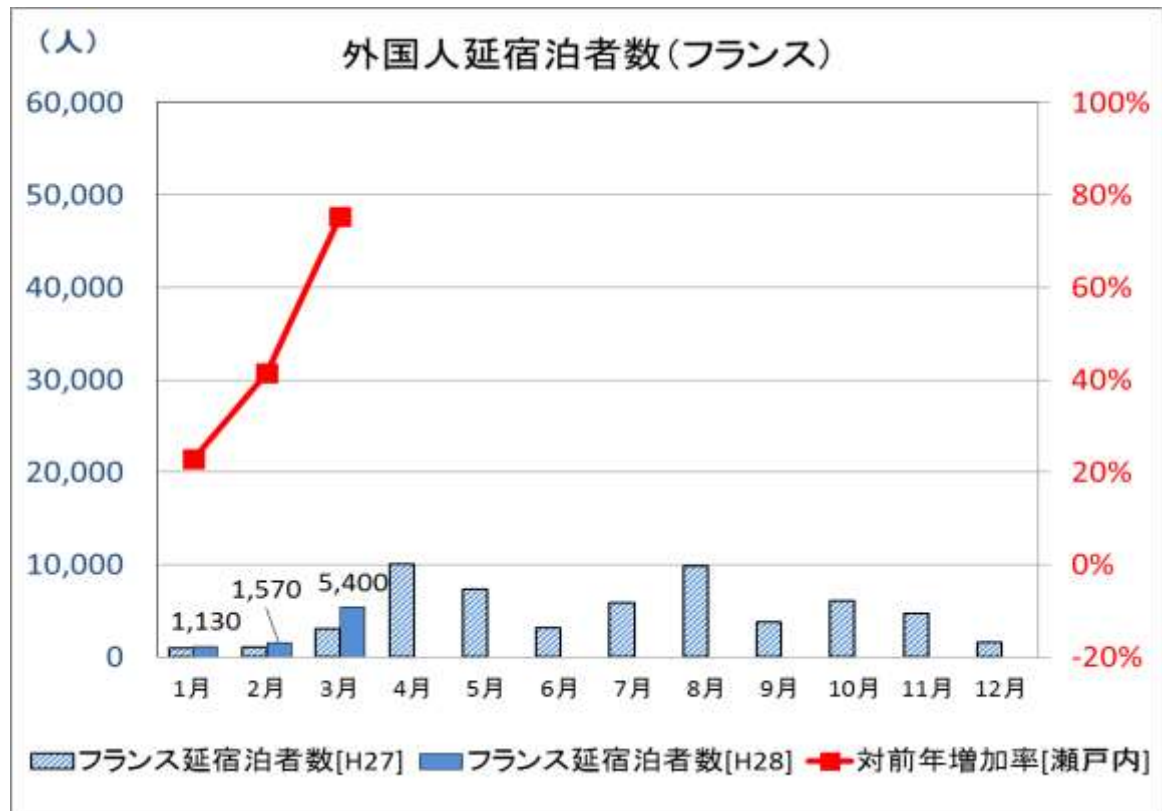
## ⑥アメリカ

堅調な米国経済と円安傾向に加えて、燃油サーチャージの引き下げにより、訪日旅行に対する割安感が増したことから全国的に増加していると言われるなか、瀬戸内においても好調に推移している。



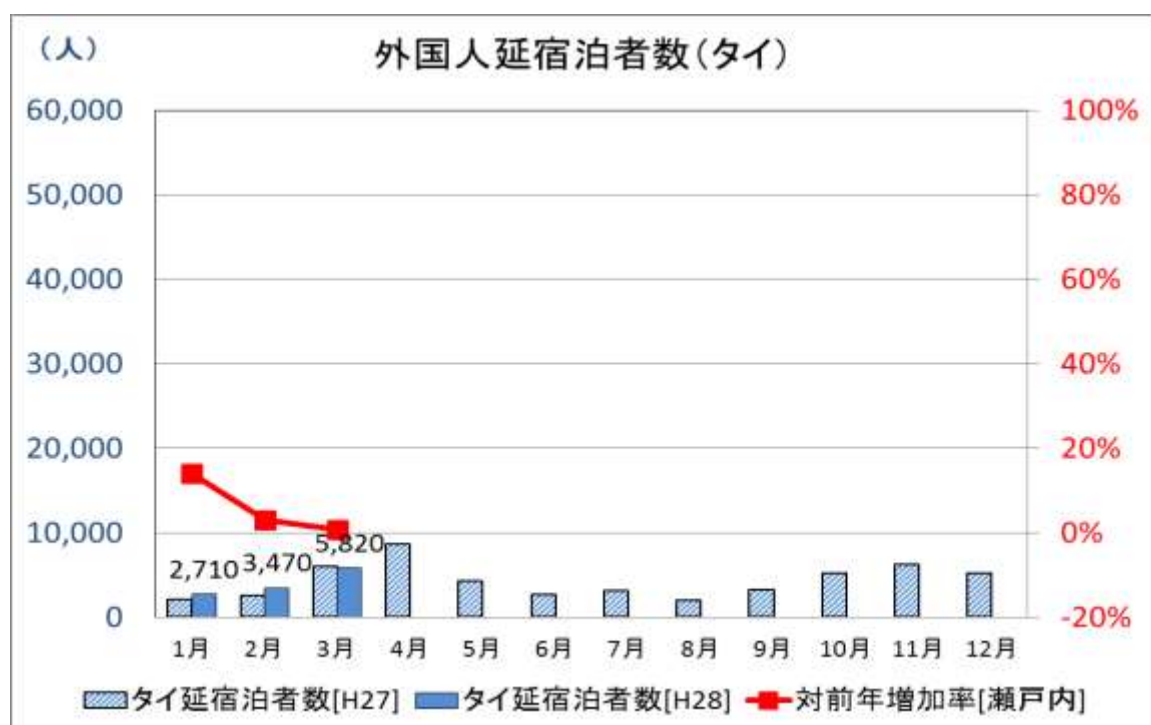
## ⑦フランス

フランスでの日本人気の高まりや、これまでの継続したプロモーションに加え、人気の春・桜シーズンの到来などにより、特に3月に大きく増加している。



## ⑧タイ

これまでの継続した取組みもあり、また現地での引き続き日本人気に伴い増加傾向にあるが、3月については4月のソンクラン（タイ正月）休暇前の買い控えの影響などにより、全国と同様に伸び率が鈍化したものと思われる

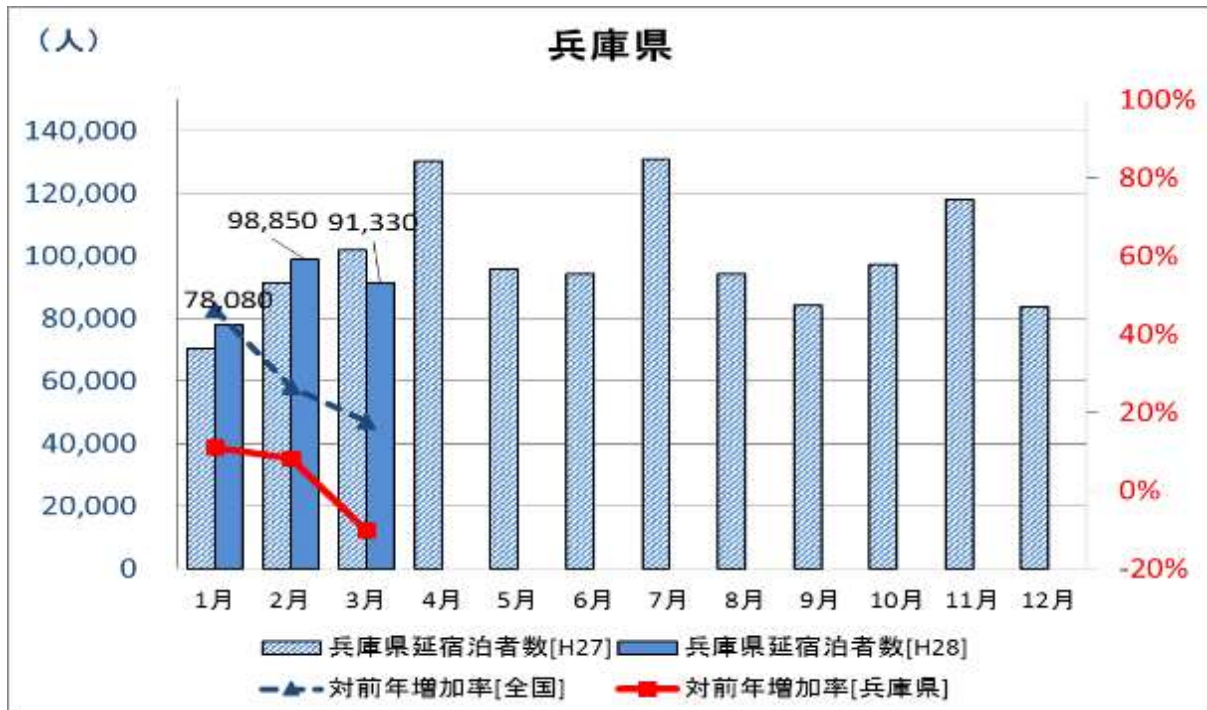




## (3) 各県別推移

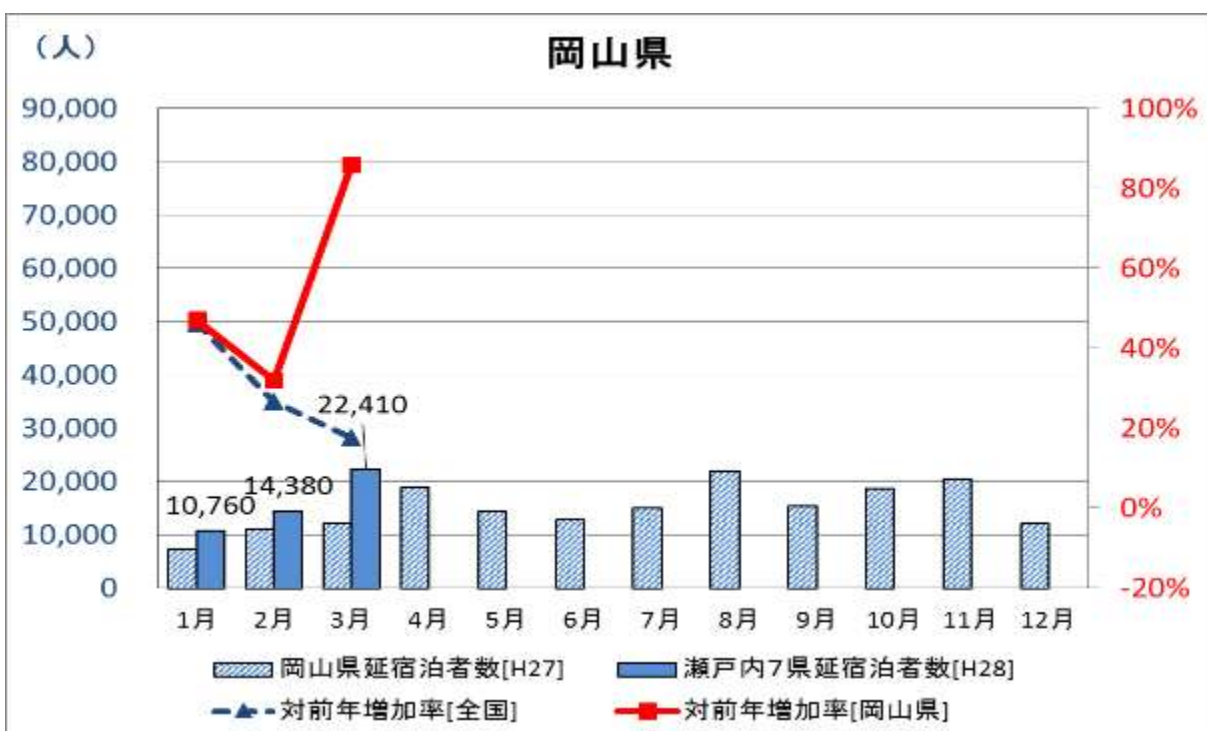
## ■ 兵庫県

中国、韓国の宿泊者数の増加が大きく寄与している。フランスも対前年増加率では好調。一方、台湾が前年に比べて減少しているため、兵庫県全体では全国の上を回っている。特に3月は中国の対前年増加率が鈍化したこともあり、対前年でマイナスに転じている。



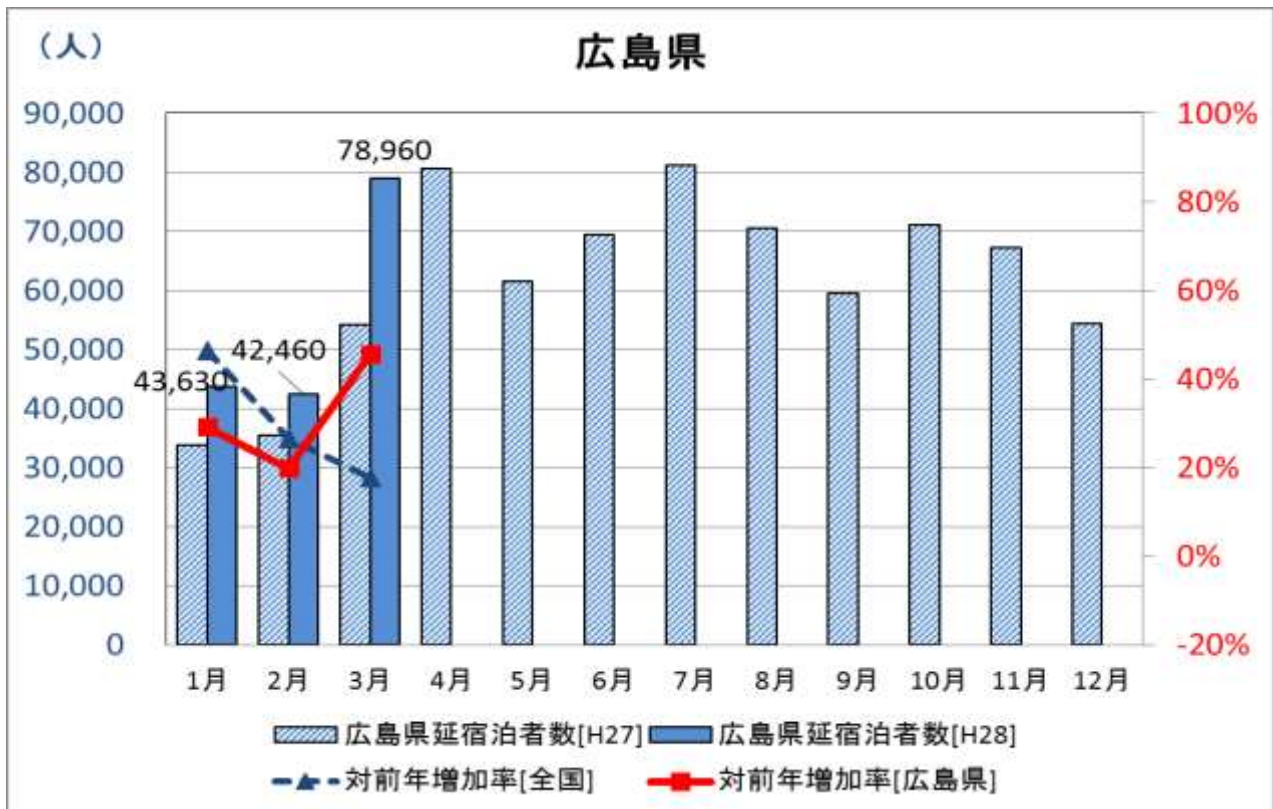
## ■ 岡山県

全国を上回る増加率を見せており、これには台湾、中国、韓国、香港の宿泊者数の増加が大きく寄与している。フランスも対前年増加率では好調。特に3月の増加は桜の時期にあわせて、台湾、中国、香港から需要が拡大したのではないかとと思われる。



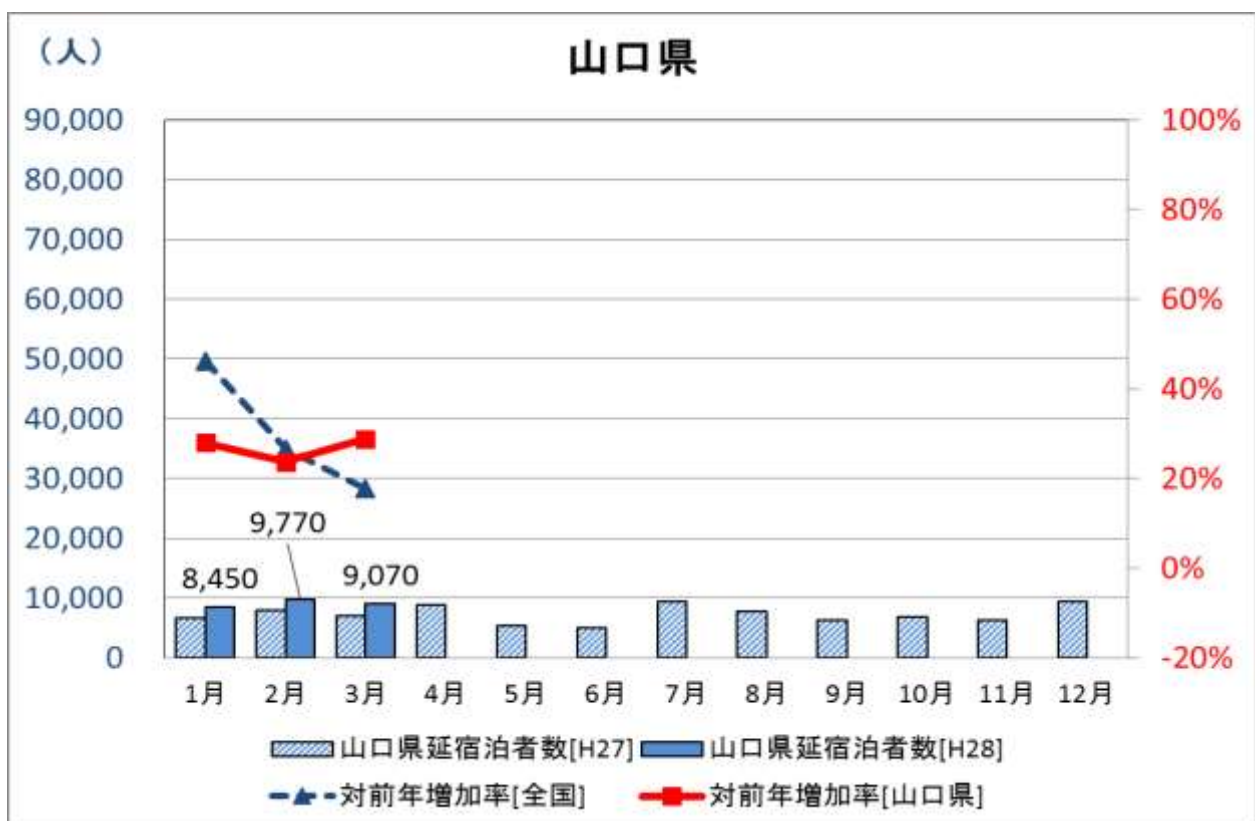
## ■ 広島県

台湾、中国、香港、アメリカの宿泊数の増加が大きく寄与している。特に香港が、昨年広島空港に新規就航した、ドラゴン航空および香港エクスプレス航空の影響のためか、急拡大している



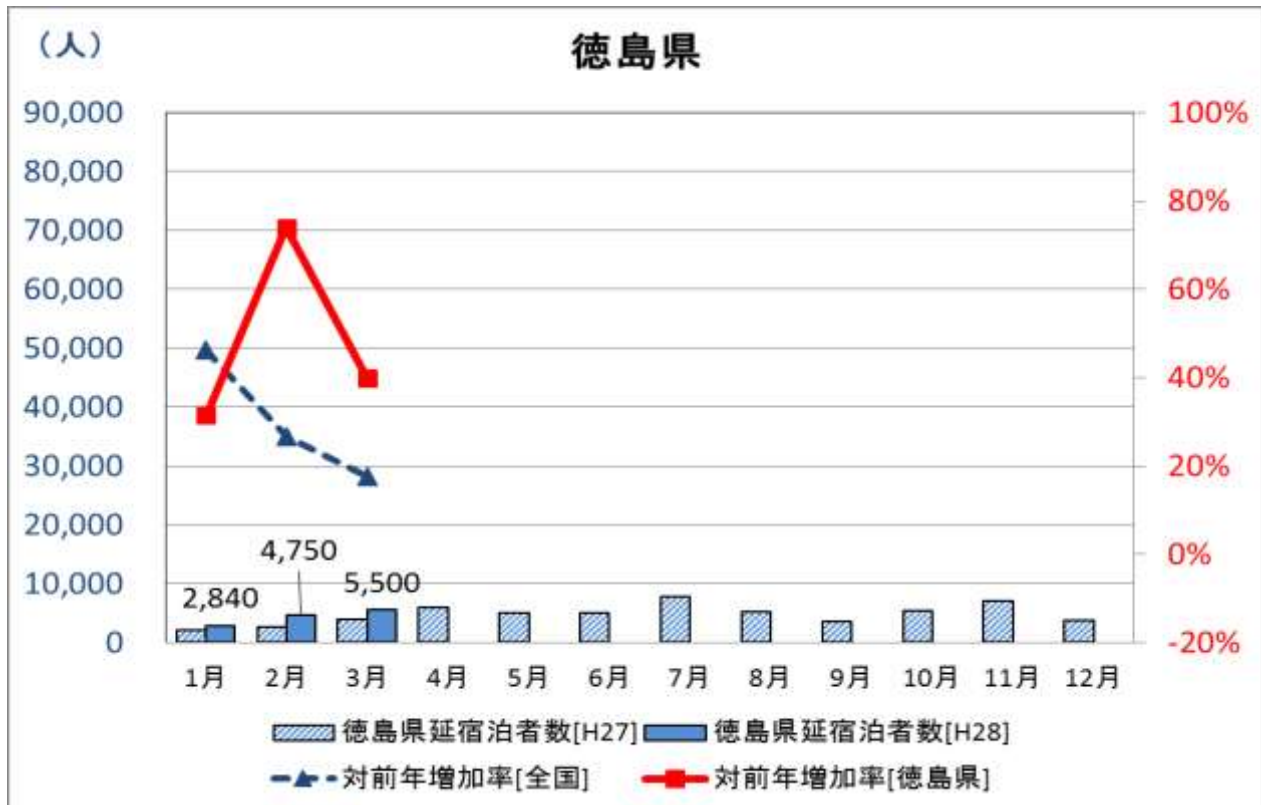
## ■ 山口県

特に韓国からの宿泊数の増加が大きく寄与している。韓国に次いでアメリカも増加している。香港も対前年増加率では好調。



## ■ 徳島県

概ね全国を上回る増加率を見せており、これには台湾、中国、香港の宿泊数の増加が寄与している。絶対数は多くはないが、韓国、オーストラリア、フランスも対前年増加率では好調。



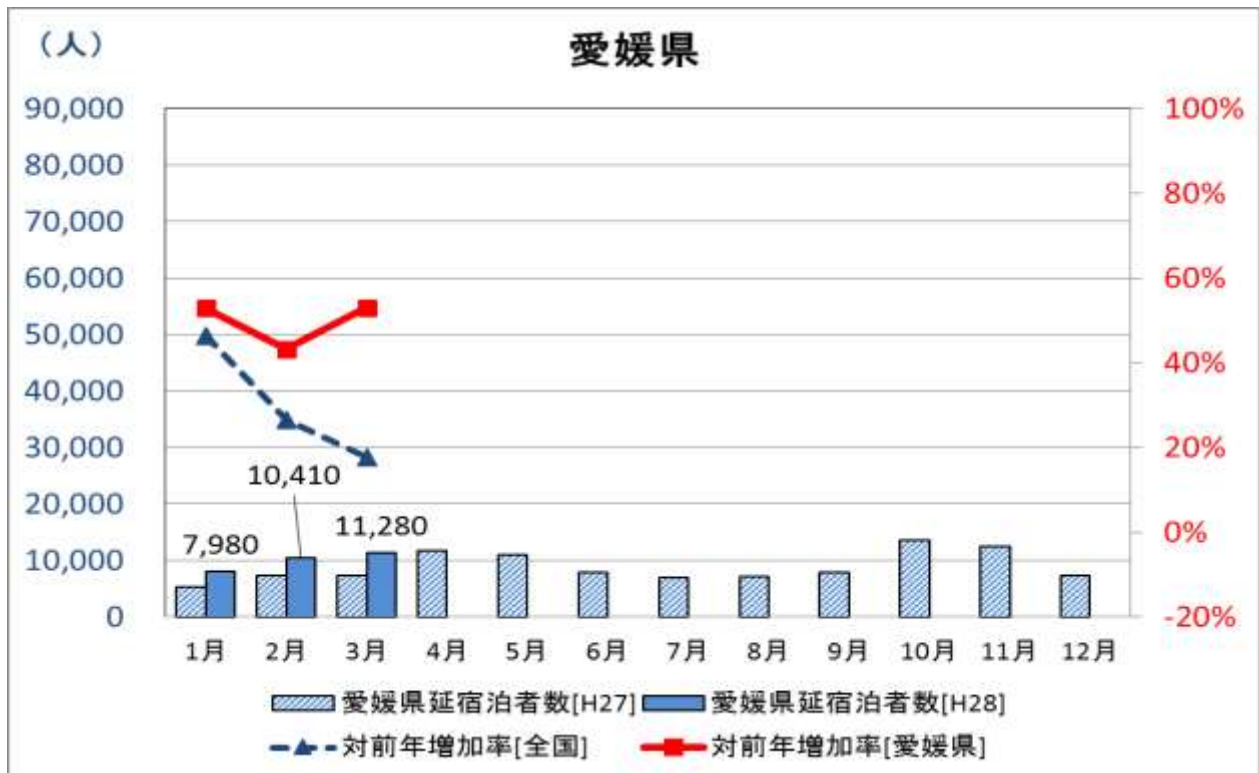
## ■ 香川県

全国を上回る増加率を見せている。特に台湾の宿泊数の増加が著しく、大きく寄与している。次いで中国の増加数も大きく、韓国、香港も好調に推移している。



## ■ 愛媛県

全国を上回る増加率を見せており、これには台湾、韓国、香港の宿泊数の増加が寄与している。絶対数は多くはないが、タイ、オーストラリア、フランスも対前年増加率では好調





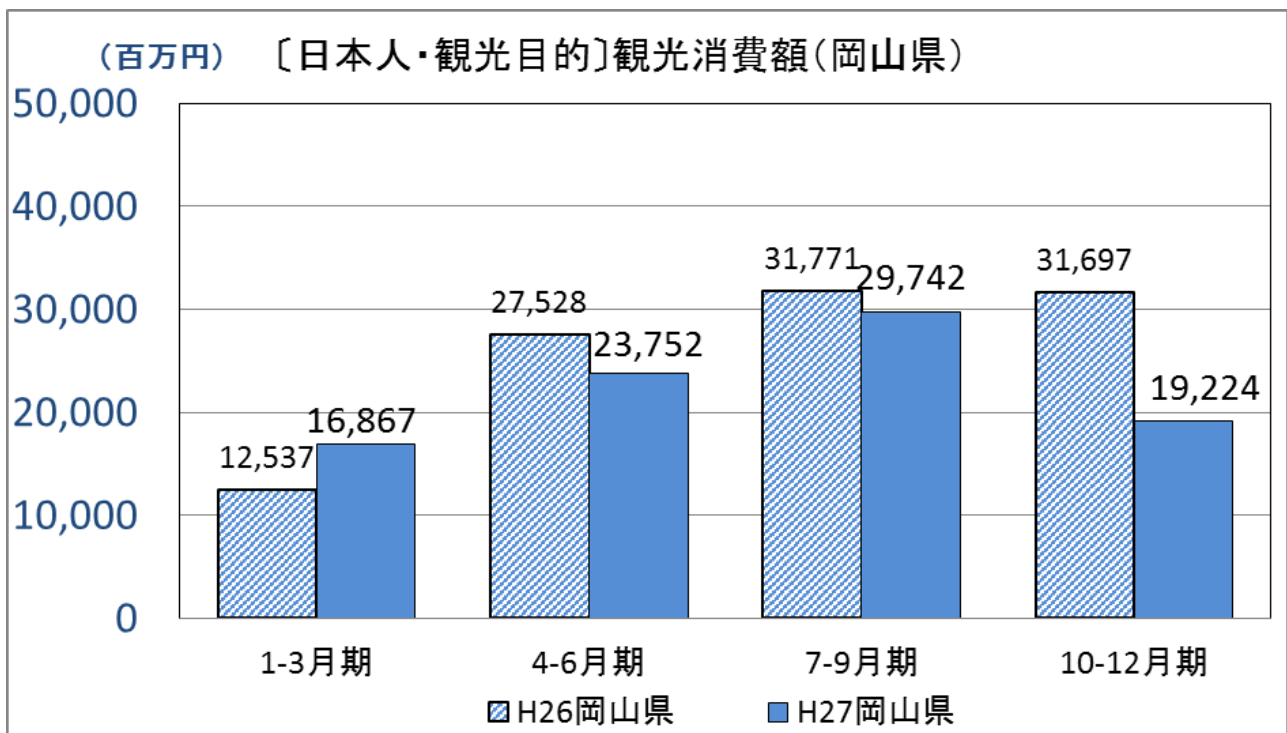
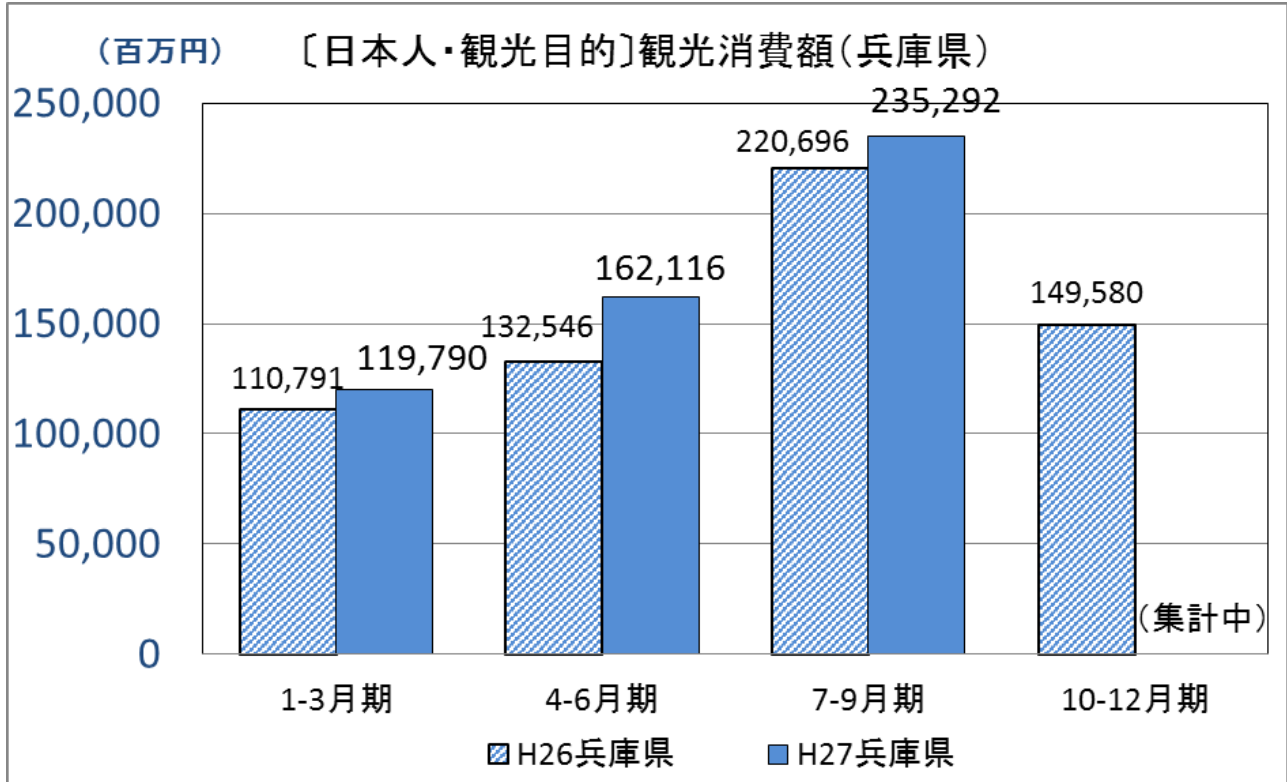
## 4. 観光消費額について

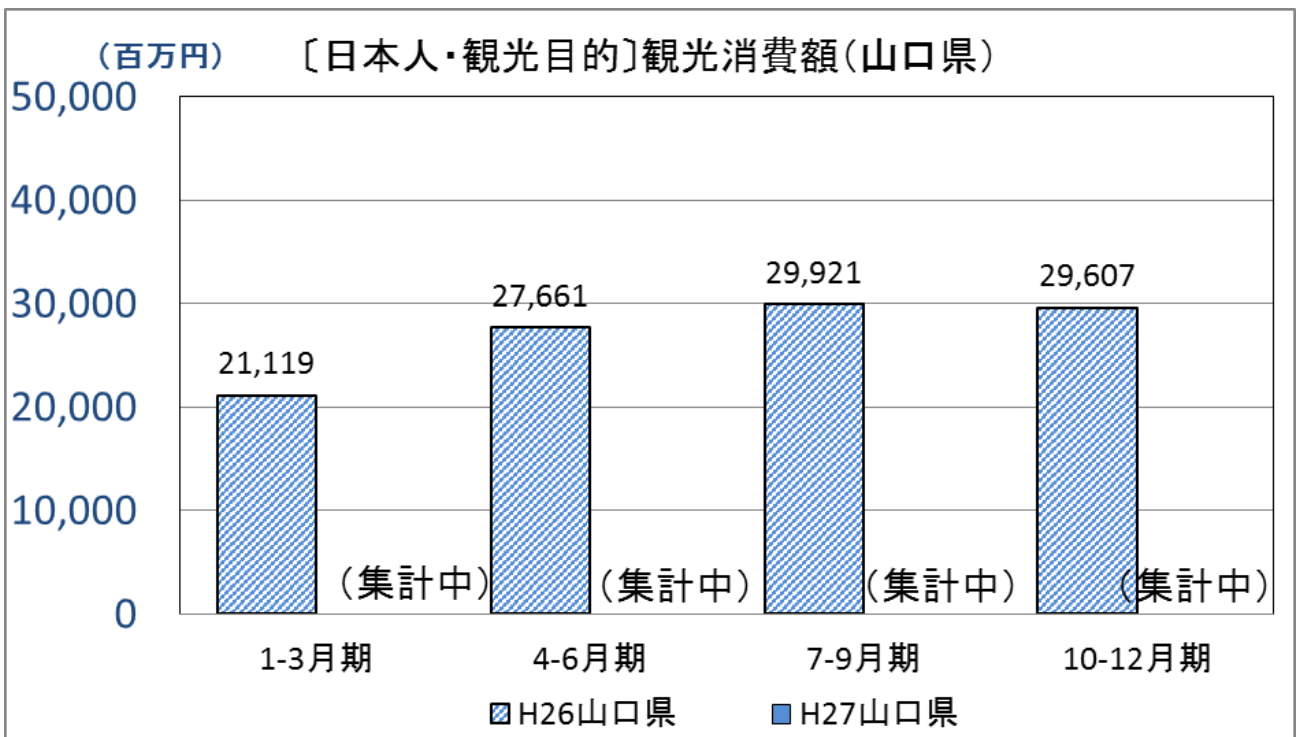
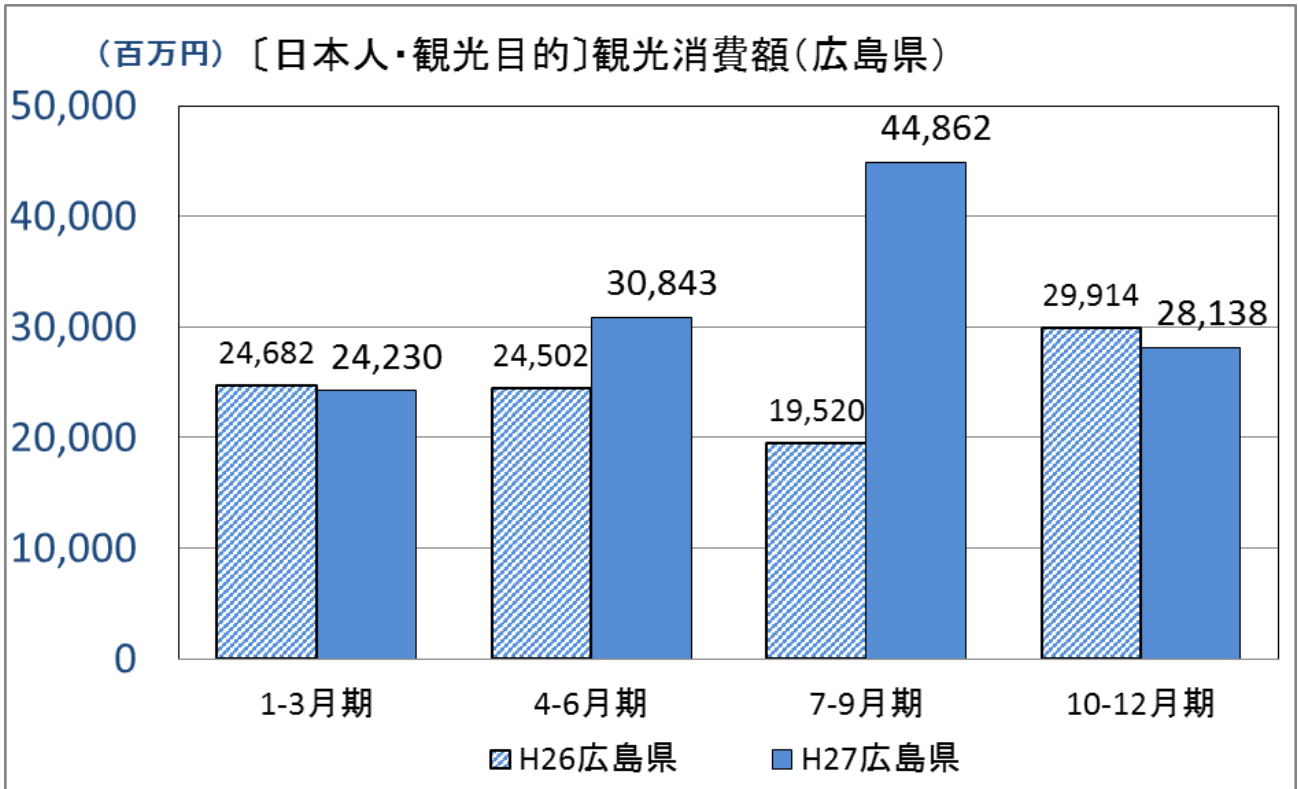
- データ出典 観光庁訪日外国人消費動向調査
- 調査対象
  - ・ トランジット、乗員、1年以上の滞在者等を除く日本を出国する訪日外国人客
  - ・ 新千歳空港、函館空港、仙台空港、新潟空港、東京国際空港（羽田空港）、成田国際空港、小松空港、富士山静岡空港、中部国際空港、関西国際空港、広島空港、高松空港、福岡空港、鹿児島空港、那覇空港、関門（下関）港、博多港、厳原港の18空海港において、来訪者への聞き取り調査等によって把握
  - ・ 四半期毎に総数9,710サンプルを目標に調査を実施（年間38,840サンプル）
- 四半期の調査結果は速報値であり、年間集計において変更される場合がある

## 1 観光消費額（国内観光目的・四半期ベース）

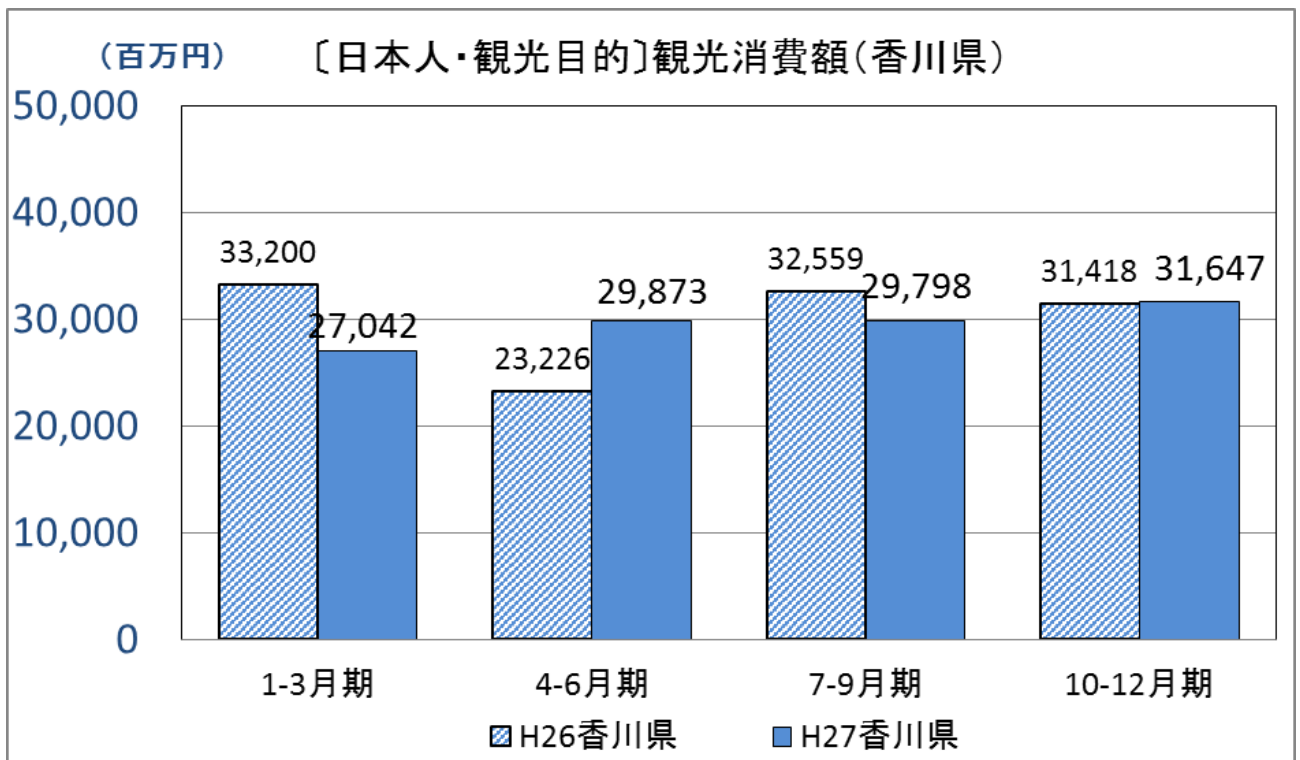
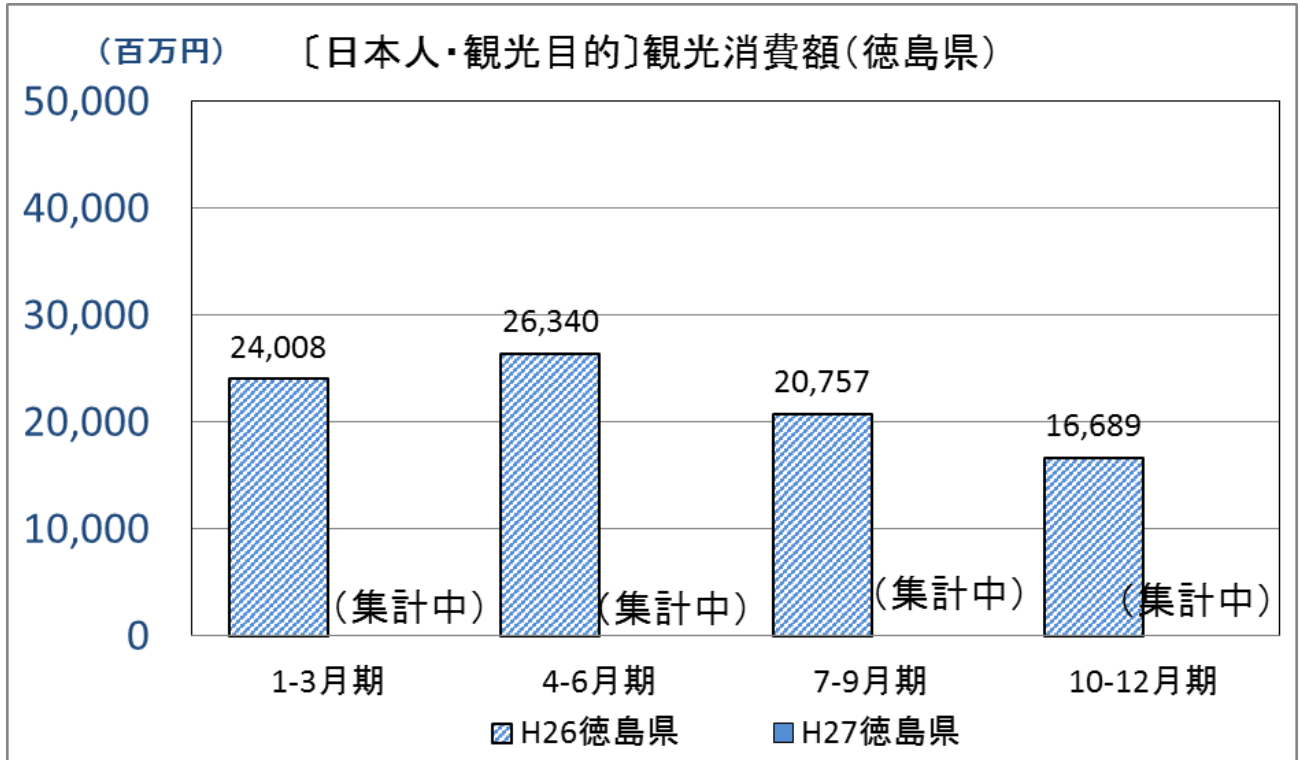
## (1) 各県別推移

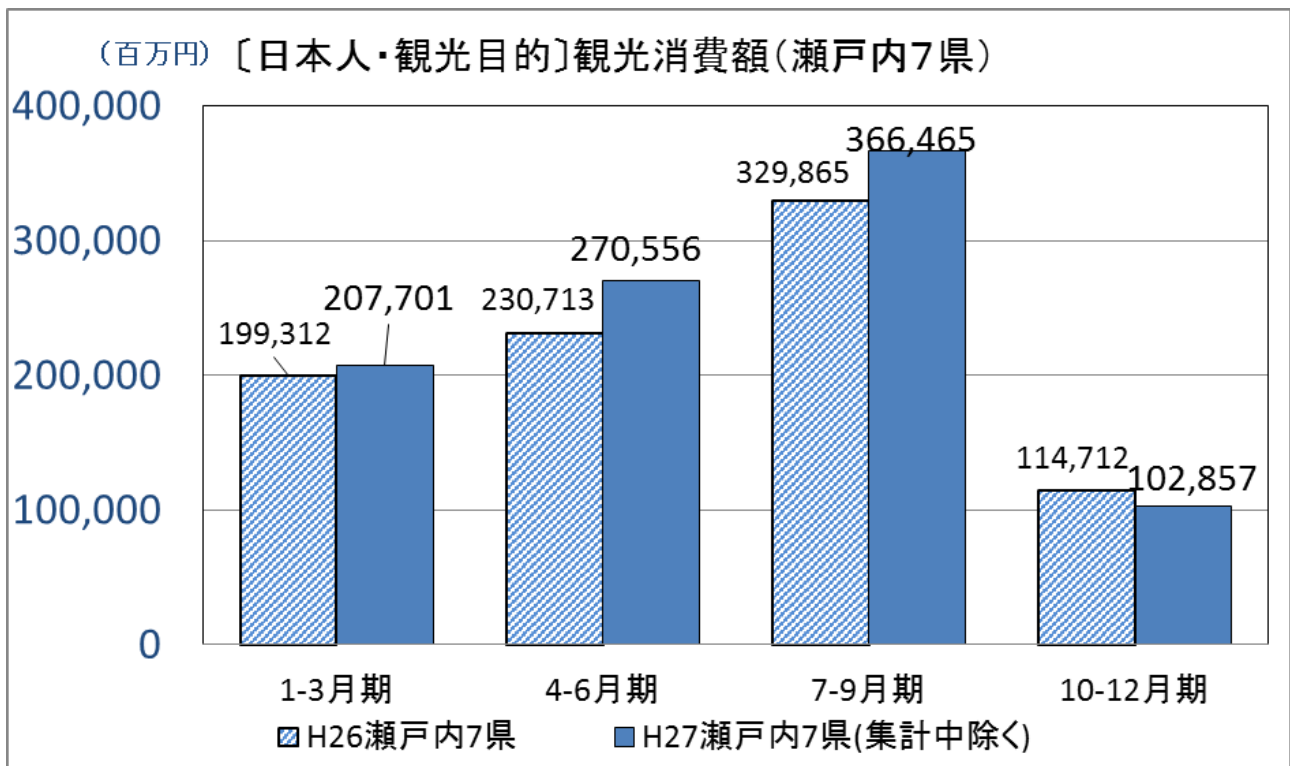
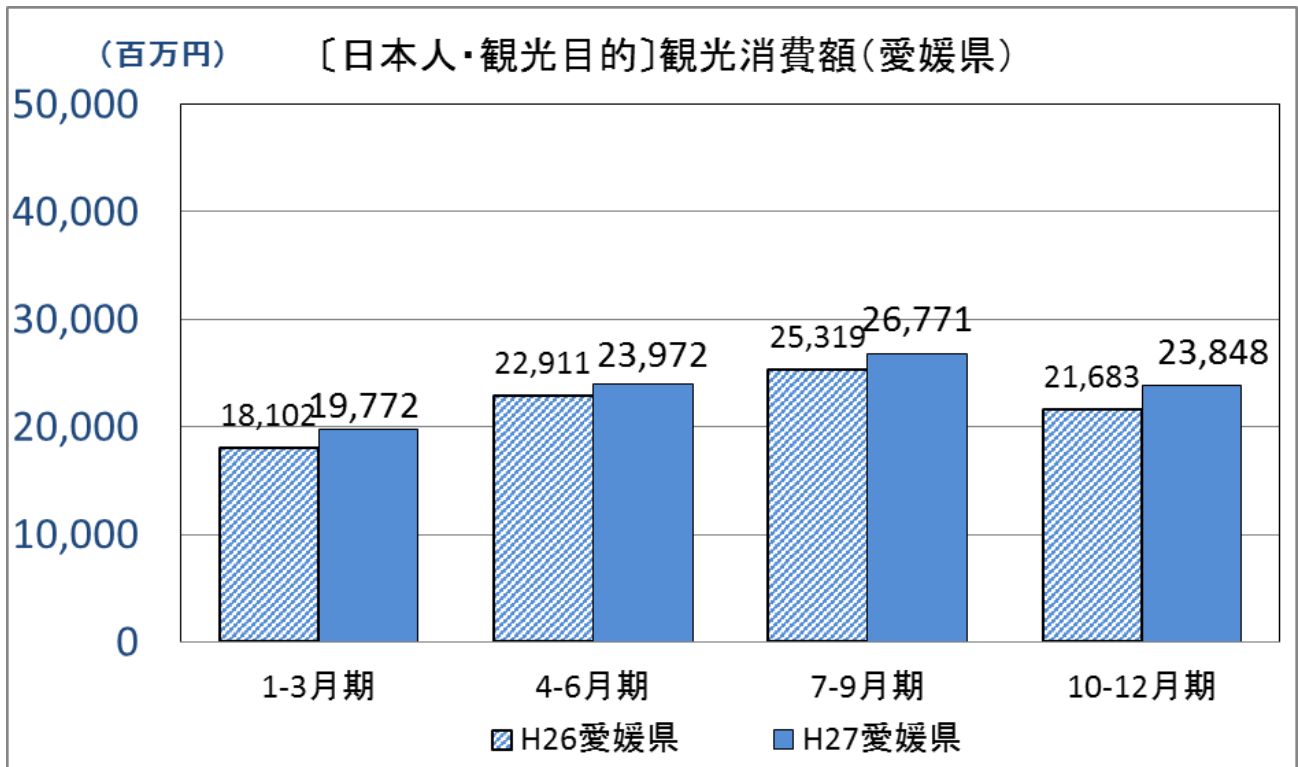
- 日本人の観光消費額は県により増減傾向が異なるが、広島県の夏の消費額の伸びが顕著である（分析中）











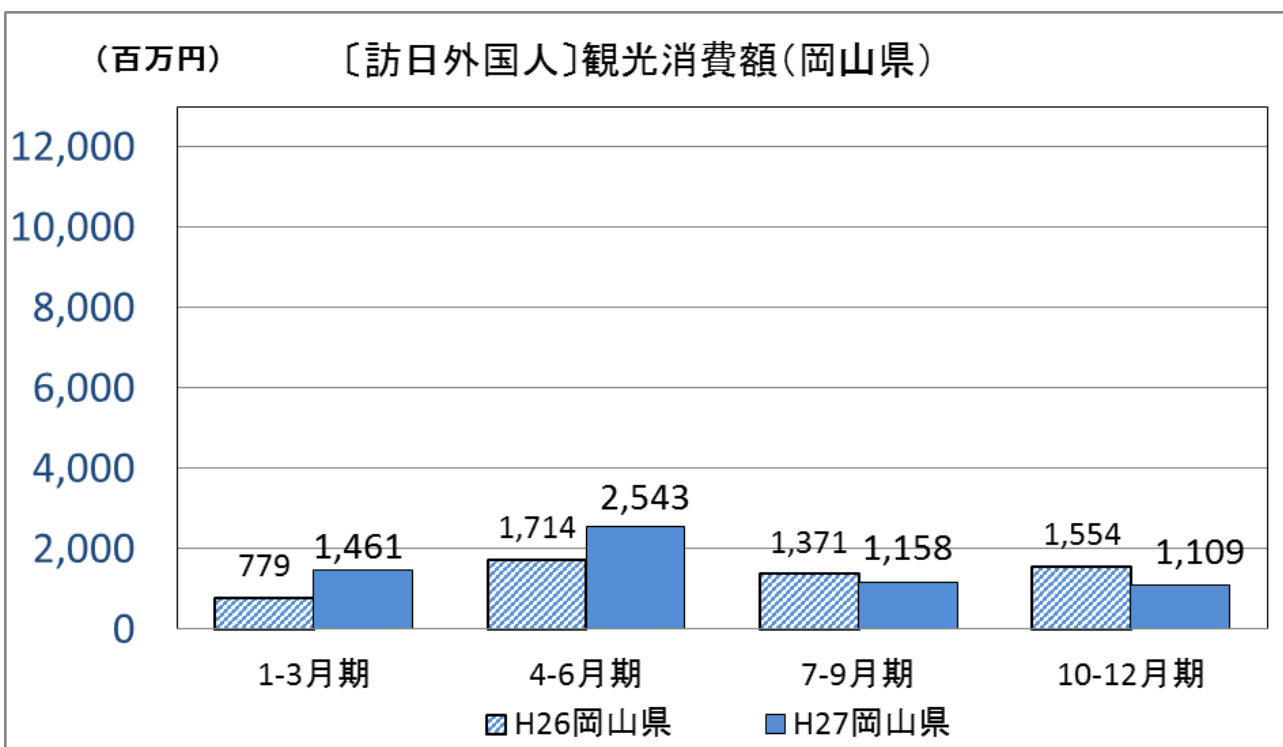
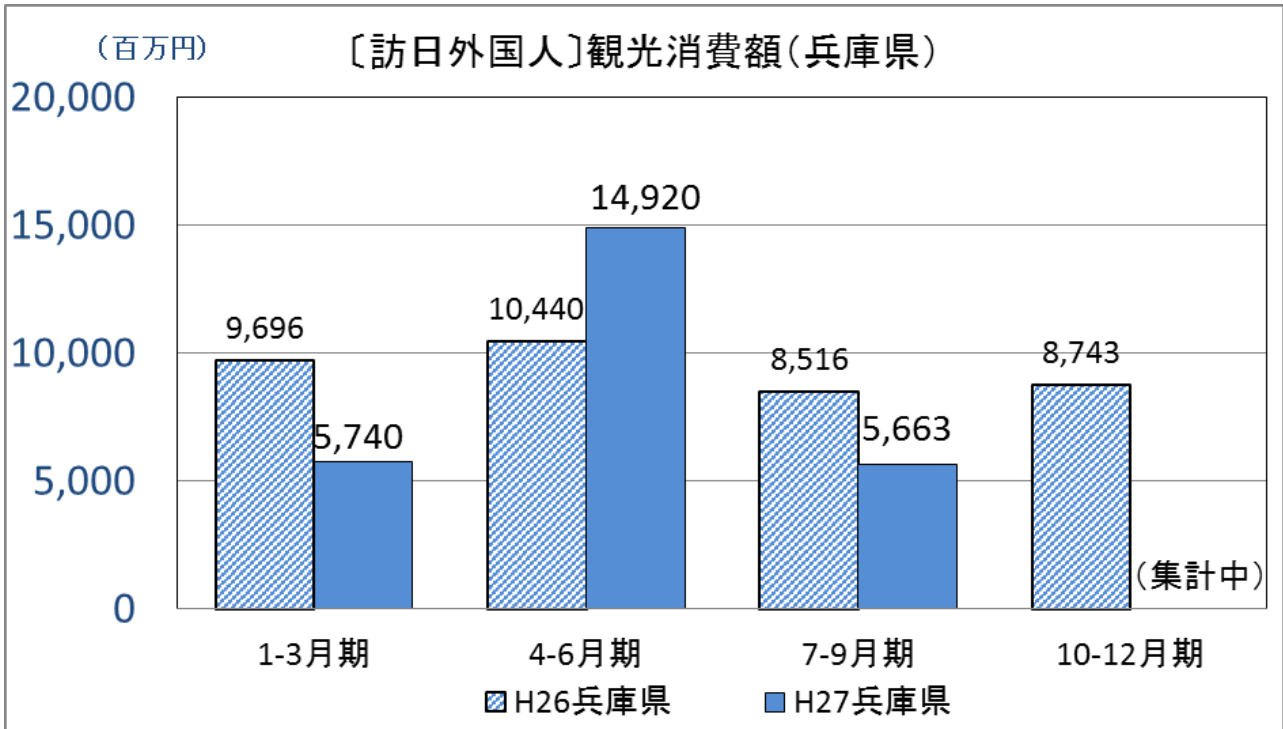
※各期において山口県、徳島県の数字は除いている (H27 集計中)

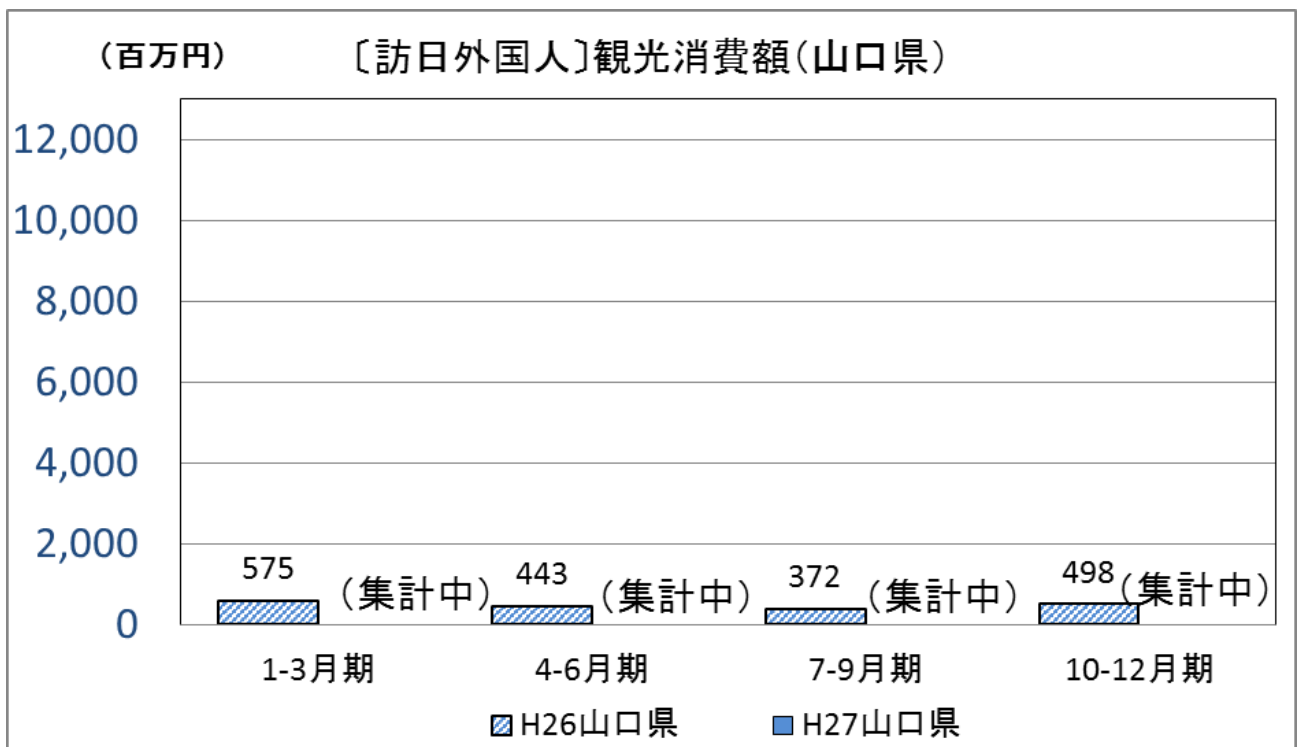
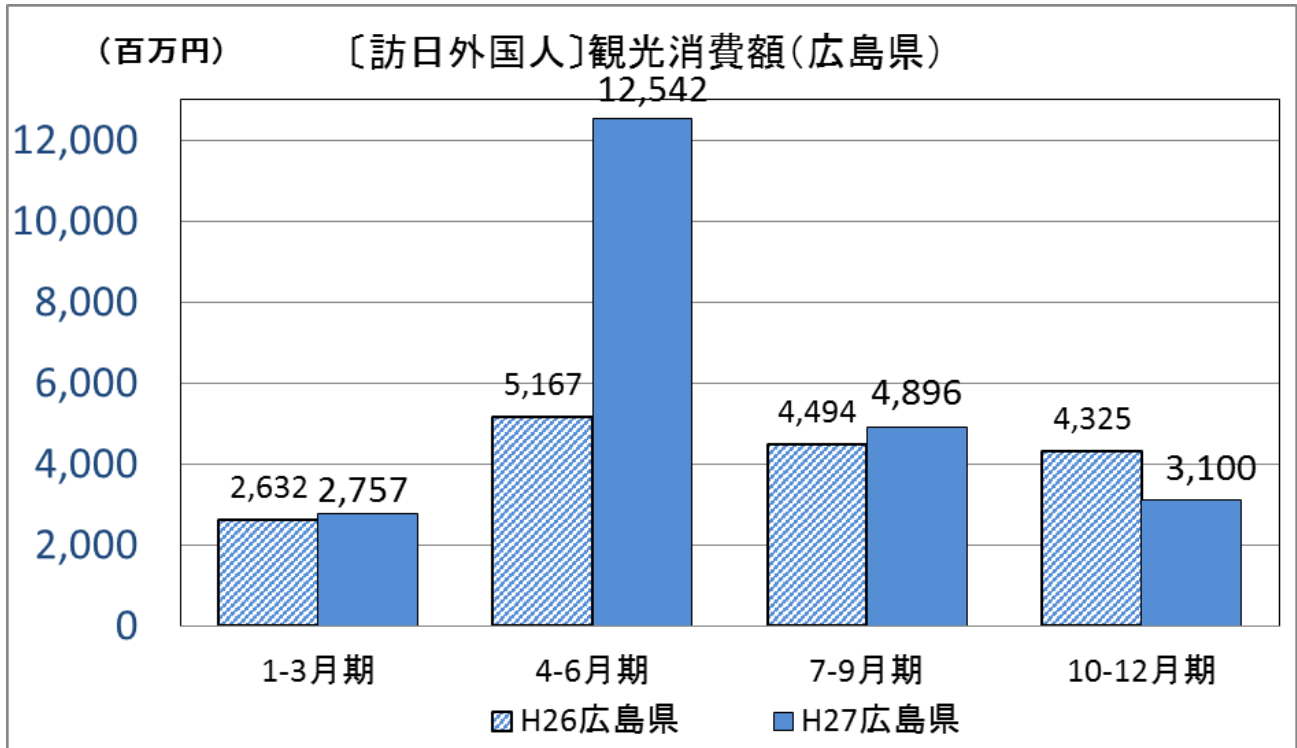
※10-12月期において、兵庫県の数値は除いている (同)

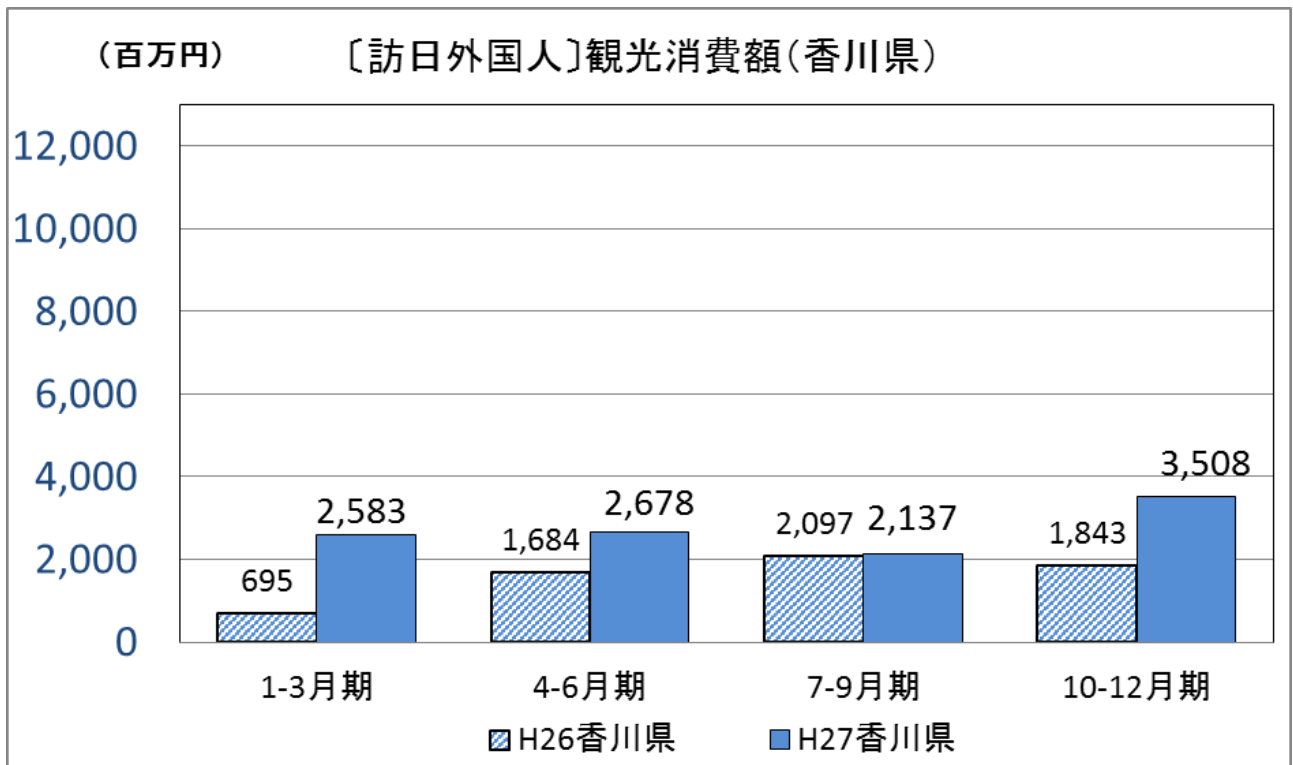
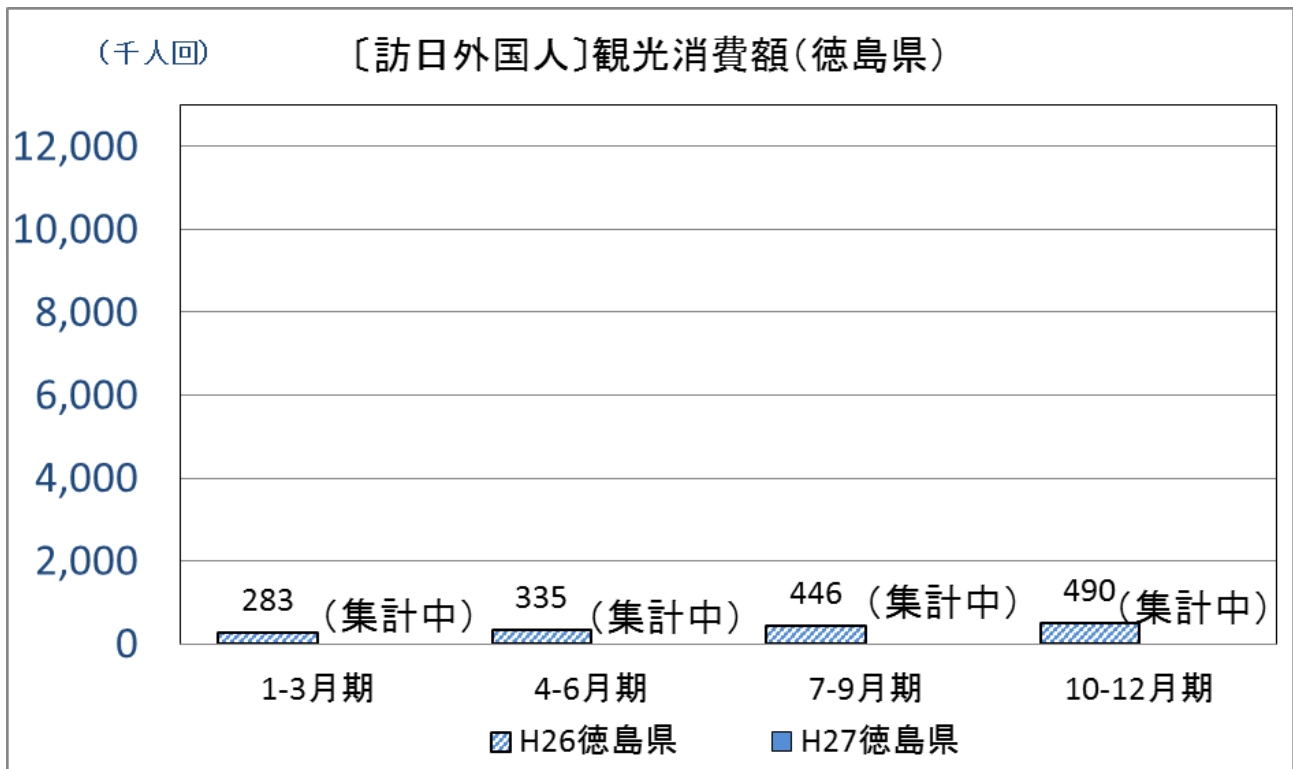
## 2 観光消費額（海外・四半期ベース）

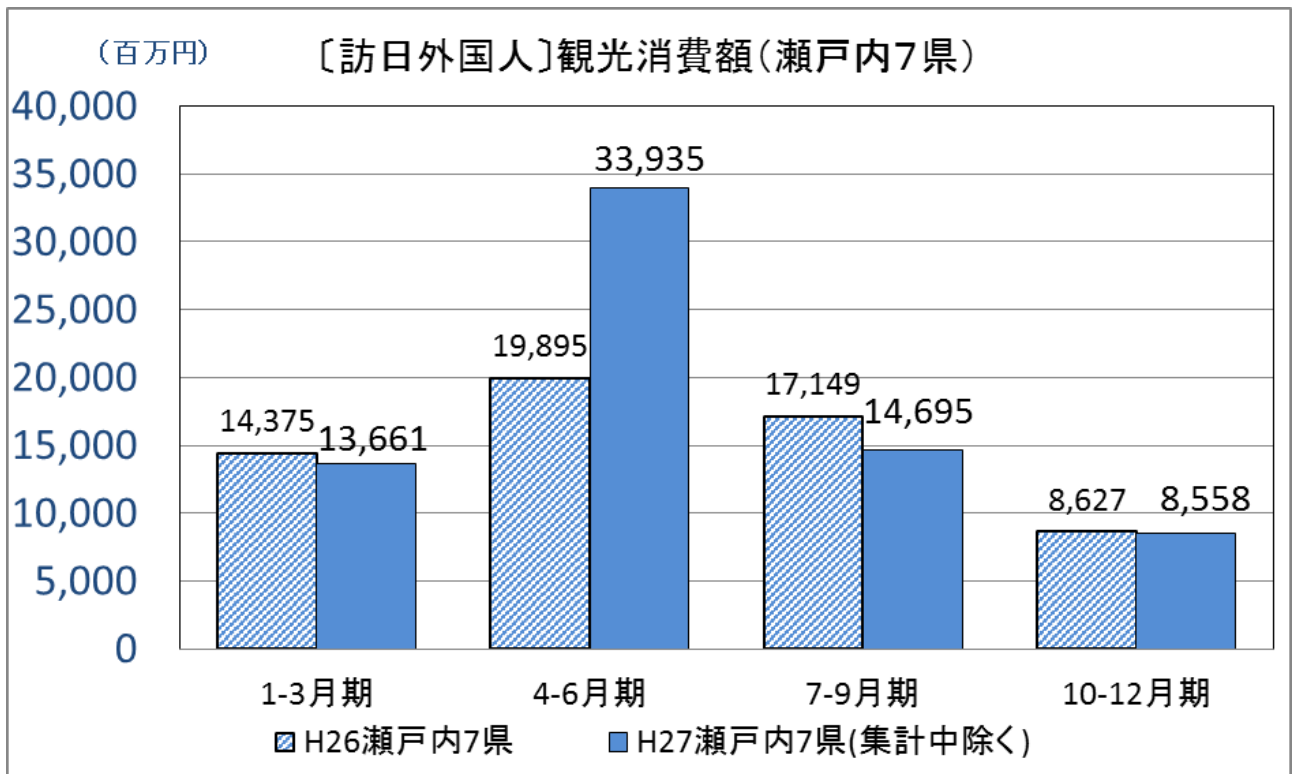
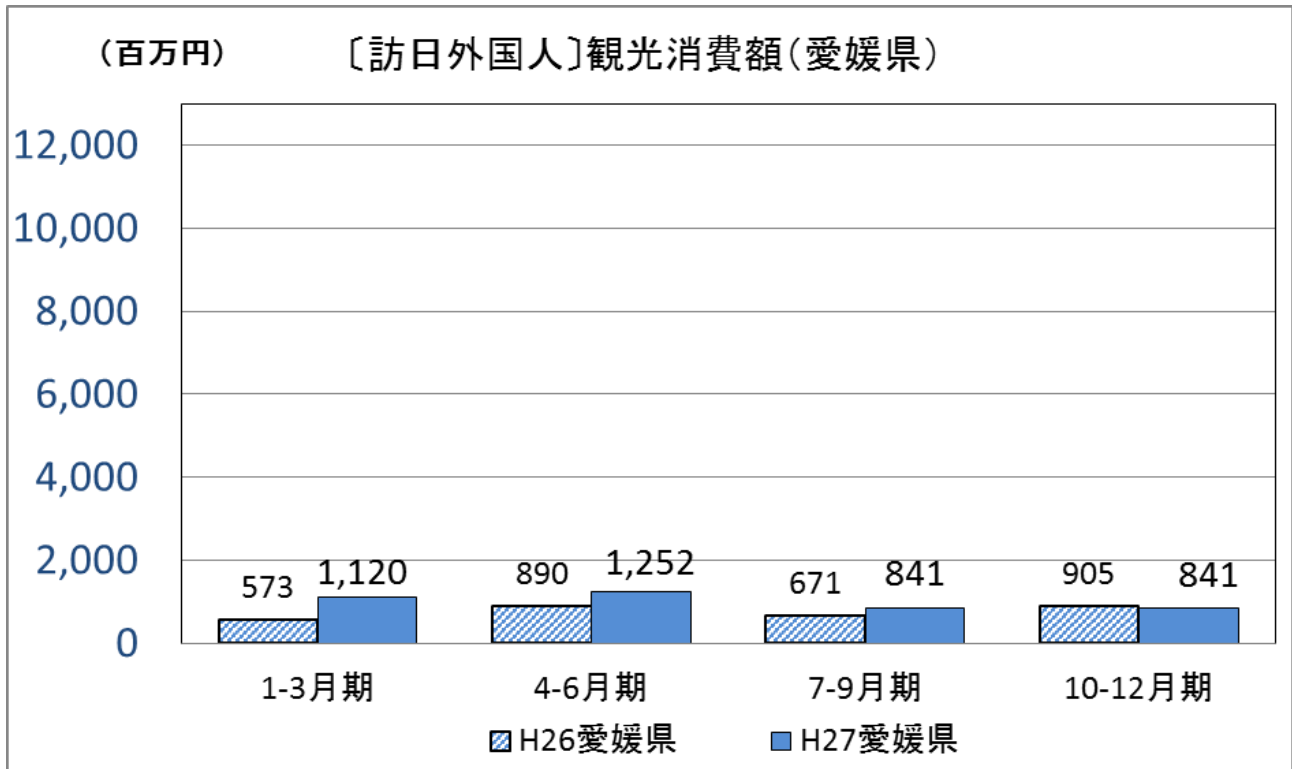
## (1) 各県別推移

- 訪日外国人の観光消費額は季節により変動の大きい兵庫県以外は概ね堅調に推移している。その中で広島県の春の消費額の伸びが顕著である。（分析中）









※各期において山口県、徳島県の数字は除いている (H27 集計中)

※10-12月期において、兵庫県の数値は除いている (同)